

第9回
「臨床心理士の動向調査」
報告書

令和6（2024）年7月
一般社団法人日本臨床心理士会
東京都文京区本郷2-27-8-401

目 次

1. はじめに	1
2. 対象および方法	2
2-1 対象	2
2-2 方法	2
3. 集計結果	3
3-1 回収率	3
3-2 単純集計	3
3-2-1 基本情報	3
(1) 性別	3
(2) 年齢	3
(3) 現住所	3
3-2-2 教育歴・臨床歴	4
(1) 教育歴	4
(2) 臨床歴	4
(3) 研修・スーパービジョン歴	5
(4) 資格	7
(5) 国家資格『公認心理師』の取得状況	7
3-2-3 就業状態	8
(1) 現在の就業形態	8
(2) 年収	8
(3) 現在の勤務状況	9
(4) 臨床心理関係の業務	12
3-2-4 主たる勤務機関での業務内容	14
(1) 待遇	14
(2) 業務	17
4. 自由記述について	19
5. おわりに	21
資 料	22
資料1：集計表	23
資料1-1 単純集計表	23
資料1-2 クロス集計表：年齢階級別	33
資料1-3 クロス集計表：領域別	40
資料2：第9回「臨床心理士の動向調査」Web版調査票	42
資料2-1 第9回「臨床心理士の動向調査」Web版調査票	42

1. はじめに

一般社団法人日本臨床心理士会は、臨床心理士の実態を把握することを目的として、3年ないし4年に1度、当会会員を対象とした動向調査を行ってきたが、今回は対象を臨床心理士資格保持者に広げ第9回調査を実施した。アンケートの回答に貴重な時間を費やしていただいた多くの皆さまに、心からの謝意を表す。

本調査時の臨床心理士の有資格者は約37,000人(うち当会会員約23,000人)である。臨床心理士の活動は社会のニーズを反映したさまざまな展開がある中で、日本臨床心理士全体の実態・意識を定期的に把握することは、次の点で極めて重要といえる。

- ①臨床心理士の活動について、社会的な説明責任を果たす
- ②臨床心理士が社会的に認知されるためのデータを提供する
- ③臨床心理士会という職能団体の、今後のあり方を検討する

これまでの動向調査のデータから、資格問題の検討等で必要とされる貴重な資料が提供され、また、臨床心理士の雇用条件を改善するための参考資料が得られるなど、当会が行う新たな活動を産み出す源となっている。

本稿では、第9回調査の結果について報告する。

2. 対象および方法

2-1 対象

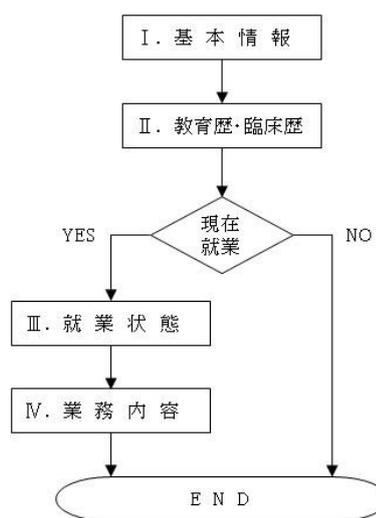
調査対象は、2023年9月1日の時点の臨床心理士資格保持者約37,000人であった。

2-2 方法

従来は郵送法により自記式調査票を配布・回収してきたが、今回からWEB形式のアンケートを導入した。会員に対して、2023年8月に発行した「日本臨床心理士会雑誌」やメルマガなど会員向けの情報提供ツールを活用して、アンケートのURLやQRコードを送り協力を呼び掛けた。そのほか当会のホームページに動向調査への協力を呼び掛ける連絡事項を掲載したり、団体会員に対しメールを発信して、会員以外の有資格者も含めて協力を呼び掛けた。回答締切日は当初10月31日であったが、回答率向上のため2023年12月31日まで延長した。その間、ホームページやメルマガを通じて対象者に対して調査への協力を依頼した。その結果、11,679人から回答が得られた。

調査票の構成は、回答者の「Ⅰ. 基本情報」、「Ⅱ. 教育歴・臨床歴」、「Ⅲ. 就業状態」、「Ⅳ. 業務内容」である。これらはいずれも選択肢回答とした。なお、右図の通り、Ⅰ・Ⅱは全回答者に回答を求め、Ⅲ・Ⅳについては現在就業中の回答者のみに回答を求めた。各下位項目は以下の通りである。

- Ⅰ. 基本情報： 年齢、性別、現住所の項目
- Ⅱ. 教育歴・臨床歴： 教育歴、臨床歴、研修・スーパービジョン、資格に関する項目
- Ⅲ. 就業状態： 就業形態、年収、勤務状況、臨床心理業務に関する項目
- Ⅳ. 業務内容： 主たる勤務機関での待遇、業務に関する項目



調査票への回答の流れ

3. 集計結果

3-1 回答率

2023年9月1日現在の資格保持者約37,000人に対する回答率は、およそ3割であった。以下、文中に記載されたパーセンテージは、無効回答者も含めた11,679人を分母とした値である。

項目名の後には、巻末に資料として掲載した集計表の表番号を〈 〉に入れて示した。また、各項目には短いコメントを付け加えた。結果の記述部分と区別するため、コメント部分は文頭に☆印を付けて示した。

3-2 単純集計

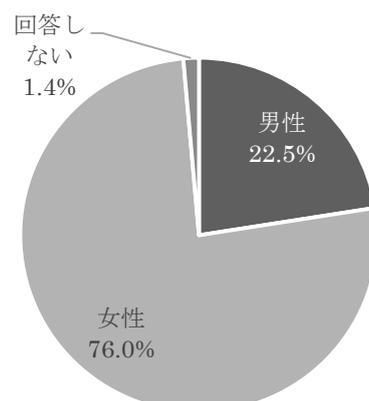
ここでは、第9回「臨床心理士の動向調査」における全調査項目についての、単純集計結果を報告する。

3-2-1 基本情報

(1) 性別〈表1〉

男性2,633人(22.5%)、女性8,881人(76.0%)、「回答しない」が165人(1.4%)であった。男女比は1:3.37であった。

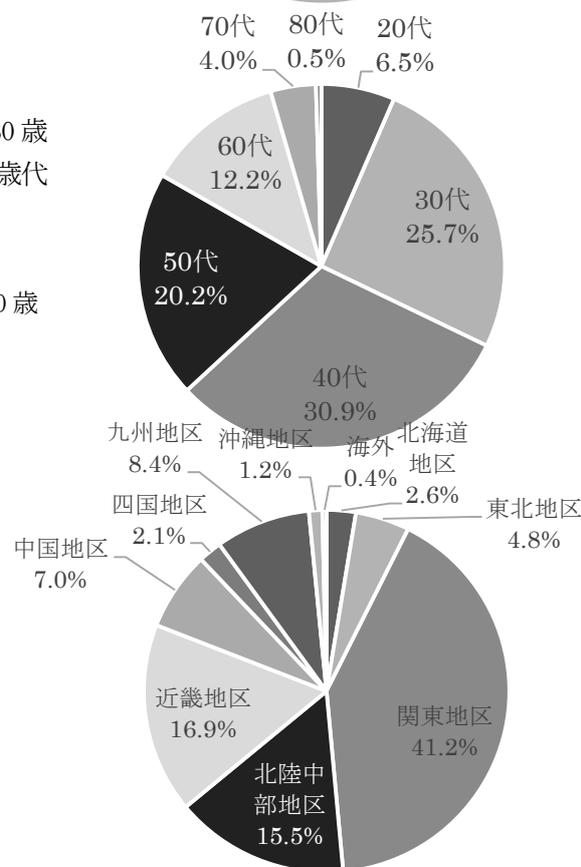
☆この性別分布は、第8回動向調査の結果と比較して、男性の254人増加に対し女性は69人の増加にとどまったが、依然女性の割合が8割近くを占めている。



(2) 年齢〈表2〉

年齢構成で割合が最も大きかった年代は40歳代の30.9%で、次いで、30歳代25.7%、50歳代20.2%、60歳代12.2%の順であった。前回同様、30-40歳代で全体の6割弱を占めた。

☆第8回動向調査以降の中央値は40歳代のままであった。また、20歳代、30歳代、40歳代の割合が低下し、50歳代は上昇した。



(3) 現住所〈表3〉

北海道地区	
東北地区	(青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島)
関東地区	(茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川)
北陸中部地区	(新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨, 長野, 岐阜, 静岡, 愛知)
近畿地区	(三重, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山)
中国地区	(鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口)
四国地区	(徳島, 香川, 愛媛, 高知)
九州地区	(福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島)
沖縄地区	
海外	

現住所は関東地区が41.2%と最も多く、次いで、近畿地区16.9%、北陸中部地区15.5%の順であった。

☆現住所分布は、第8回動向調査の結果とほぼ一致していた。

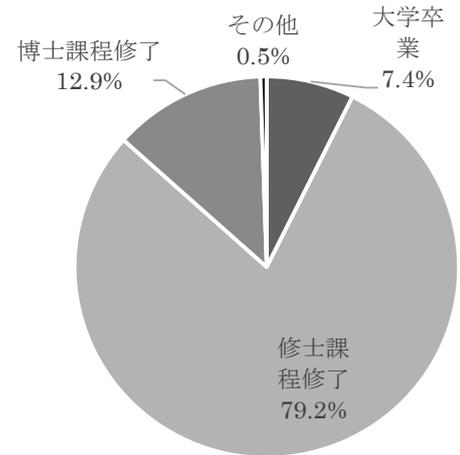
3-2-2 教育歴・臨床歴

(1) 教育歴

① 最終学歴〈表4〉

最終学歴では、修士課程修了程度の者（6年制大学卒・博士課程中退を含む）が79.2%と最も多く、次いで、博士課程修了程度（満期退学を含む）が12.9%、4大卒7.4%、の順であった。

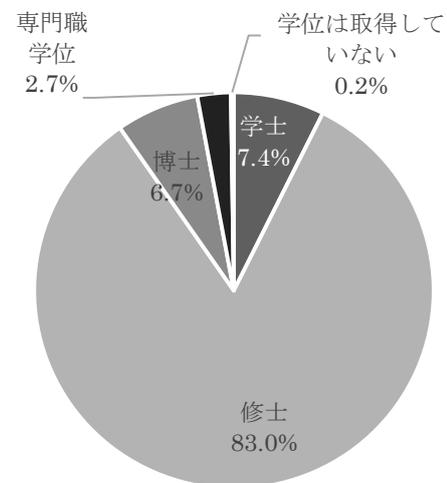
☆最終学歴の分布は、第8回動向調査の結果と同様、修士課程修了者が増加し、大学卒業者が減少した。



② 最終学位〈表5〉

最終学位では、修士号取得者（6大卒・博士課程中退を含む）が83.0%と最も多く、次いで、学士7.4%、博士号が6.7%の順であった。

☆最終学位の分布は、第8回動向調査の結果と比較すると、修士号取得者が2.6ポイント上昇し、学士取得者が3.8ポイント低下している。これは、最終学歴の結果と対応するものと考えられる。



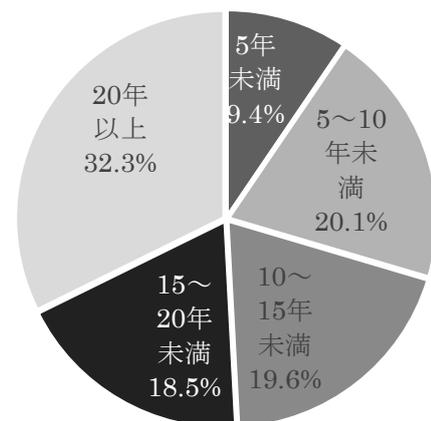
(2) 臨床歴

① 臨床心理業務の実務経験年数〈表6〉

※大学・大学院修士課程在学期間は除く。

5年未満が9.4%、5年から10年未満の者が20.1%、10年から15年未満の者が19.6%、15年から20年未満の者が18.5%、20年以上が32.3%となっている。

☆第8回動向調査の結果と比較すると、10年未満の割合が5.4ポイント、20年以上の割合が3ポイント上昇し、10年から20年未満の割合が3.3ポイント低下した。今回より20年以上の経験年数をまとめて表記している。

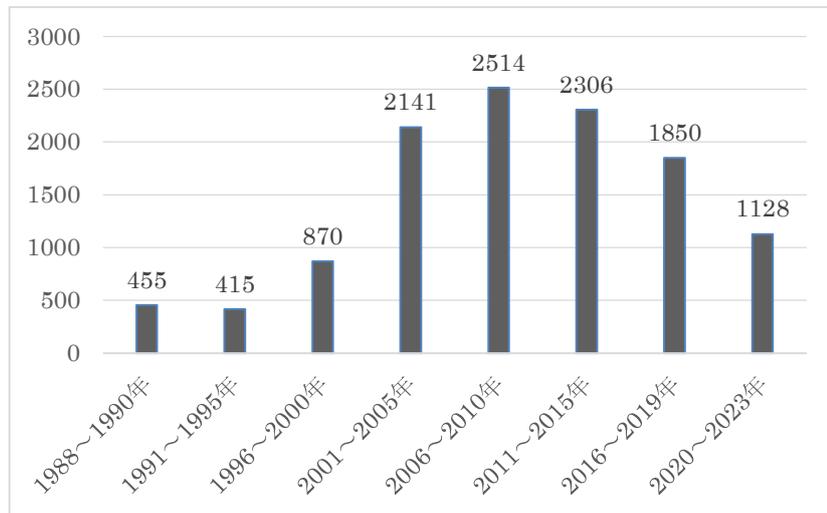


②臨床心理士資格取得年〈表7〉

※受験に関しては、1988年から1995年は経過措置期間で、書類審査のみによるB審査が行われている。1991年から筆記・面接試験によるA審査が開かれ、1996年以降はA審査のみの実施となった（大学院研究科専攻課程の運用内規制定）。これに伴い、1998年に最初の14の大学院指定専攻コースが発足した。

回答者は2006年から2010年取得者（2005年から2009年合格者）の2514人（21.5%）が最も多かった。

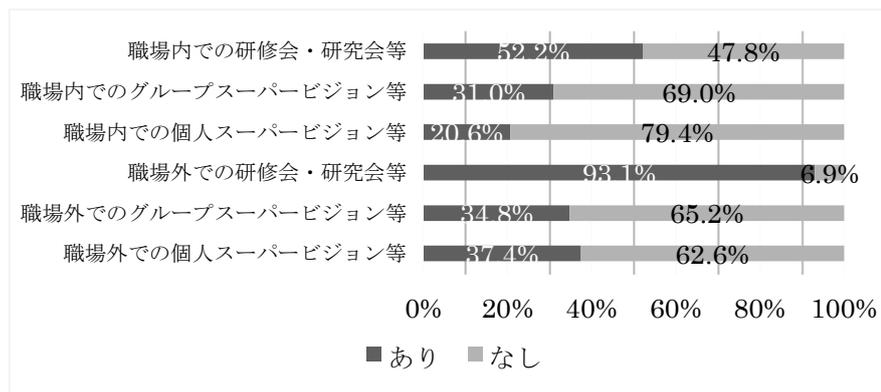
☆臨床心理士資格認定審査の合格者数は1,500人前後で推移している（日本臨床心理士資格認定協会）こと、および20歳代の年齢構成割合が期待値よりも小さいことから、この減少は資格取得間もない年齢層の加入率低下が影響していると考えられる。



(3) 研修・スーパービジョン歴

① 現在受けている研修〈表8〉

現在受けている臨床心理業務の研修として最も高率であったのは、職場外での研修会・研究会等であり、続いて、職場内での研修会・研究会等であった。職場内での研修会・研究会に参加している者は52.2%、グループSVを受けている者は31.0%、個人SVを受けている者は20.6%であった。職場外での研修会・研究会に参加している者は93.1%、グループSVを受けている者は34.8%、個人SVを受けている者は37.4%であった。

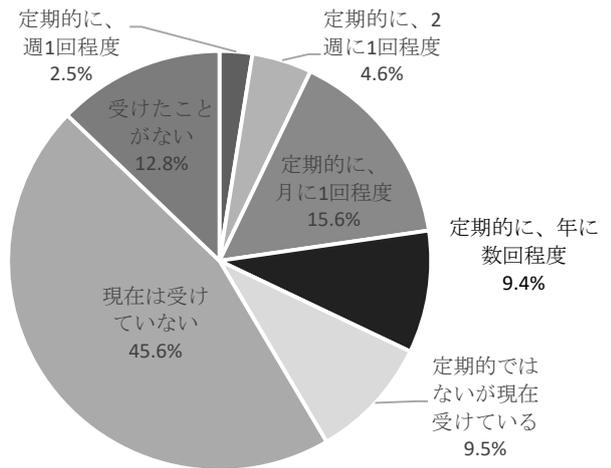


☆第8回動向調査と比較して、職場内での研修会・研究会やSVに参加している率、職場外での研修会・研究会等に参加している率が上昇している一方で、職場外でのSVを受けている率は低下していた。自由記述において、経済面から職場の補助なしで研修の機会を持つ難しさに関する訴えが多く見られたことから、職場の待遇により差が生じていることが考えられた。

② スーパービジョン頻度 〈表 9〉

スーパービジョンは、現在受けていない者・受けたことがない者が合わせると 58.4%であった。現在受けている者のなかでは、定期的に月 1 回程度が 15.6%と最も多かった。

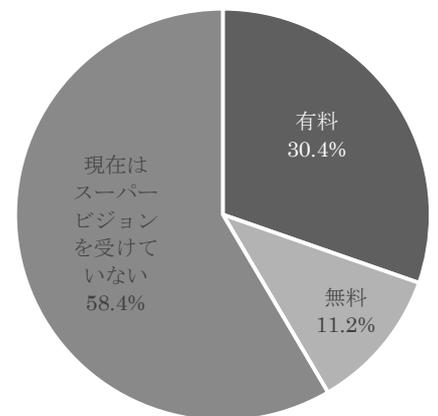
☆第 8 回動向調査時と同様、スーパービジョンを現在受けていない者・受けたことがない者が約 6 割を占めた。また、今回から追加された定期的ではないが現在受けている者が 9.5%となり、定期的に年に数回受けている者は 6.5 ポイント低下した。



スーパービジョン費用 〈表 10〉

スーパービジョンの費用は、有料が全体の 30.4%（現在スーパービジョンを受けている者の 73.1%）、無料が 11.2%（同 26.9%）であり、現在スーパービジョンを受けている者の 7 割強は有料で受けていることが示された。

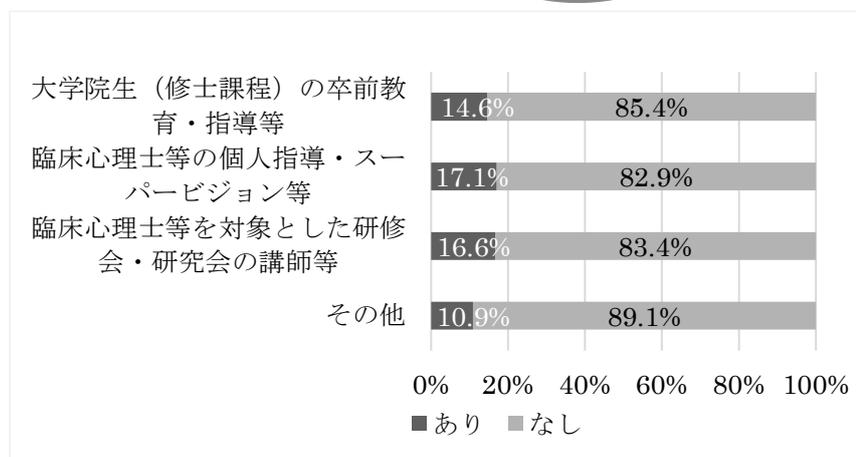
☆この費用分布は、第 8 回動向調査の結果とほぼ一致していた。



③ 臨床心理士の育成・教育・指導 〈表 11〉

臨床心理業務に関して、現在自分が行っている臨床心理士の育成・教育・指導としては、院生（修士）の卒前教育・指導等が 14.6%、臨床心理士等の個人指導・スーパービジョン等が 17.1%、臨床心理士等を対象とした研修会・研究会の講師等が 16.6%、その他が 10.9%であった。

☆この分布は、第 8 回動向調査の結果とほぼ一致していた。

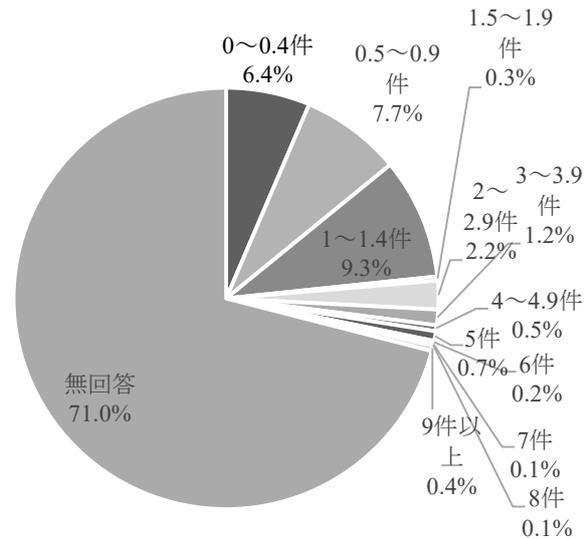


④ スーパービジョン件数（1週間あたり）〈表 12〉

※スーパービジョンの形態や、有料・無料の別は問わない。グループ・スーパービジョンは、構成人数にかかわらず1件として計算した。

現在臨床心理業務のスーパービジョンを行っている者は全体の29.0%であり、そのうち週1件以上5件未満が13.5%（行っている者の46.5%）、5件以上が1.5%（同5.2%）、1件未満が14.1%（同48.6%）であった。無回答は71.0%であった。

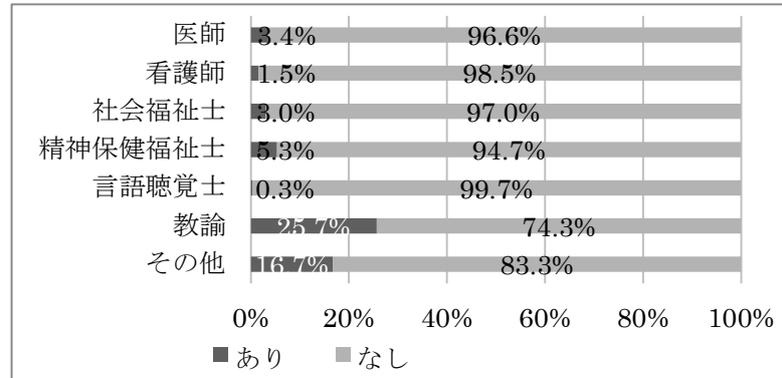
☆アンケート回答欄にて、前の質問との相関関係で0件が選択できない場合があり、無回答が70%を超える結果となった。



(4) 資格〈表 13〉

心理専門職以外に所持する関連領域資格の割合は、教諭が25.7%で最も高く、次いで、そのほかが16.7%、精神保健福祉士が5.3%であった。

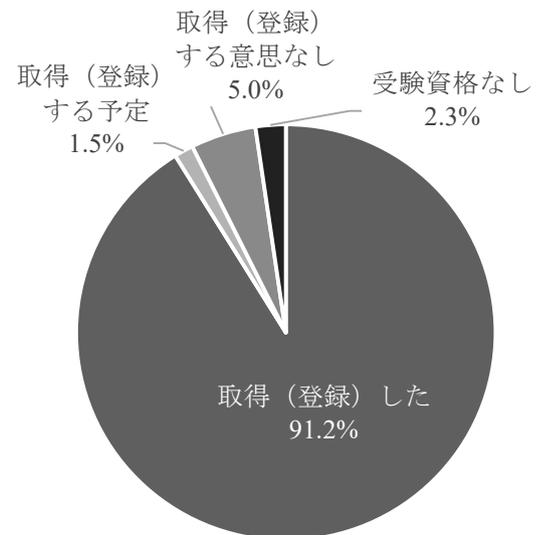
☆関連領域の資格保持者の分布は、第8回動向調査時とほぼ同率であった。



(5) 国家資格『公認心理師』の取得状況〈表 14〉

10,646人(91.2%)が取得しており、取得予定者174人(1.5%)を合わせると、92.7%の者が取得済み及び取得予定であった。一方で、取得する意思のないと回答したものが587人(5.0%)、受験資格がないと回答したものが272人(2.3%)いた。

☆第8回動向調査時と比較し、取得（登録）をした者は増加し、9割を超えた。



3-2-3 就業状態

(1) 現在の就業形態〈表 15〉

※「常勤」には休職中を含む。また、「現在勤務していない」には退職を含む。

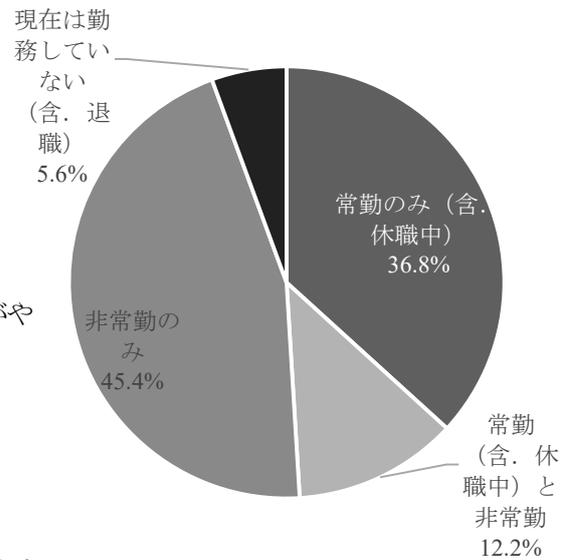
常勤勤務者の率は、常勤のみが 36.8%、常勤＋非常勤が 12.2%の計 49.0%であった。非常勤のみは 45.4%で、常勤勤務者（非常勤兼務者を含む）が非常勤のみの勤務者よりやや高い結果となった。

☆第 8 回動向調査の結果と比較し、常勤勤務者（非常勤兼務者を含む）の割合がやや増加していた。

なお、全員回答の設問はこの項目までである。

「現在勤務していない（含. 退職）」と回答した者は、ここままで回答終了となる。

以下の「年収」からは、勤務形態を問わず、現在就業している者についての調査結果となる。

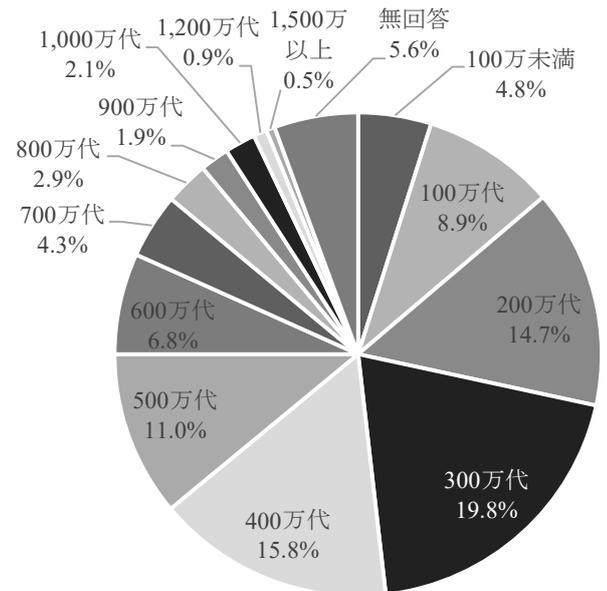


(2) 年収〈表 16〉

※私設心理相談の場合の必要経費は除く。

2023 年度の見込み年収（税込み）の割合は、300 万円台が 19.8%と最も高く、続いて前後の 400 万円台が 15.8%、200 万円台が 14.7%と、この 3 階級で回答者の約半数を占めた。

☆この見込み年収分布は、第 8 回動向調査の結果とおおよそ一致していた。



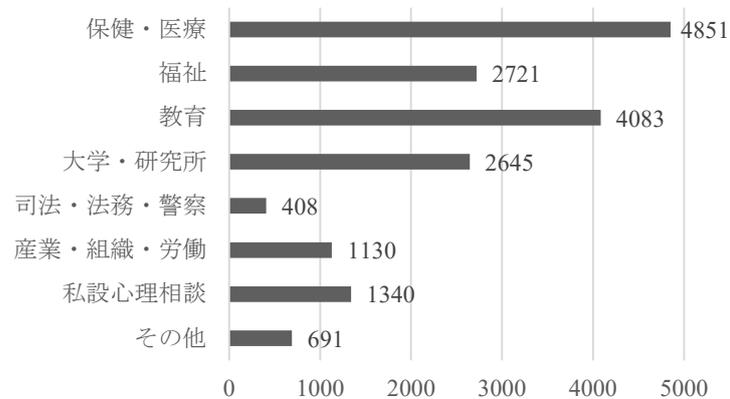
(3)現在の勤務状況

※複数の領域にまたがって勤務している場合があるため、勤務機関の領域は、実際には多重回答項目となっている。

① 勤務領域別に見た勤務者数 〈表 17〉

就業形態に関わらず各領域での勤務人数を見ると、最も多かった領域は、保健・医療領域の4,851人(44.0%)であり、次いで、教育領域の4,083人(37.0%)、福祉領域の2,721人(24.7%)であった。

☆第8回動向調査の結果と比較して、各領域の勤務者数の割合に大きな変動はなかった。

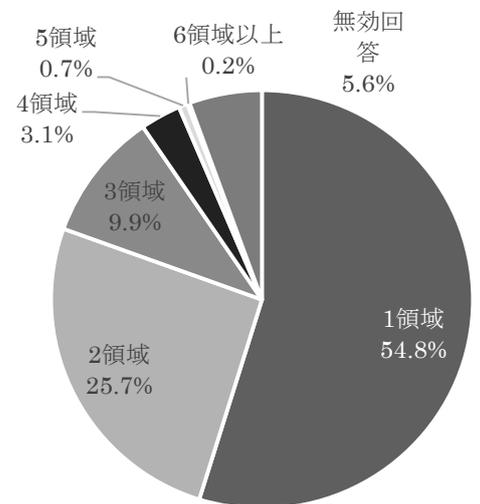


② 勤務領域数 (1人あたり) 〈表 18〉

※複数の勤務機関に所属していても、同一領域の機関であれば1領域とした。

勤務領域数は、1領域と回答した者の割合が54.8%と半数以上を占め、次いで2領域が25.7%、3領域が9.9%、4領域が3.1%であった。複数領域に勤務していると回答した者は39.6%となっていた。

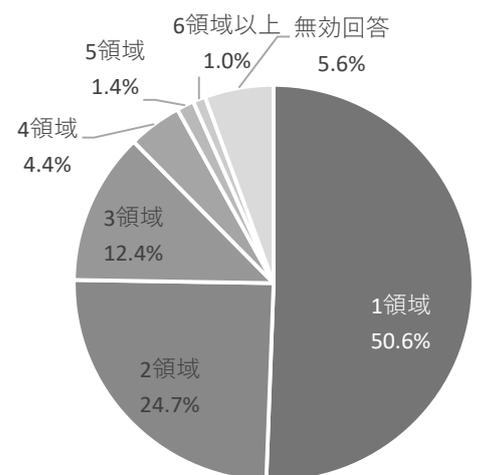
☆第8回動向調査の結果と比較すると、1領域勤務者の割合がやや低下し、複数領域勤務者率はやや上昇した。



③ 勤務機関数 (1人あたり) 〈表 19〉

勤務機関数は、1機関と回答した者の割合が50.6%と最も高く、次いで2機関が24.7%であった。複数箇所に勤務している者は43.9%であった。

☆第8回動向調査の結果と比較すると、1領域勤務者の割合がやや低下し、複数機関勤務者がやや上昇した。

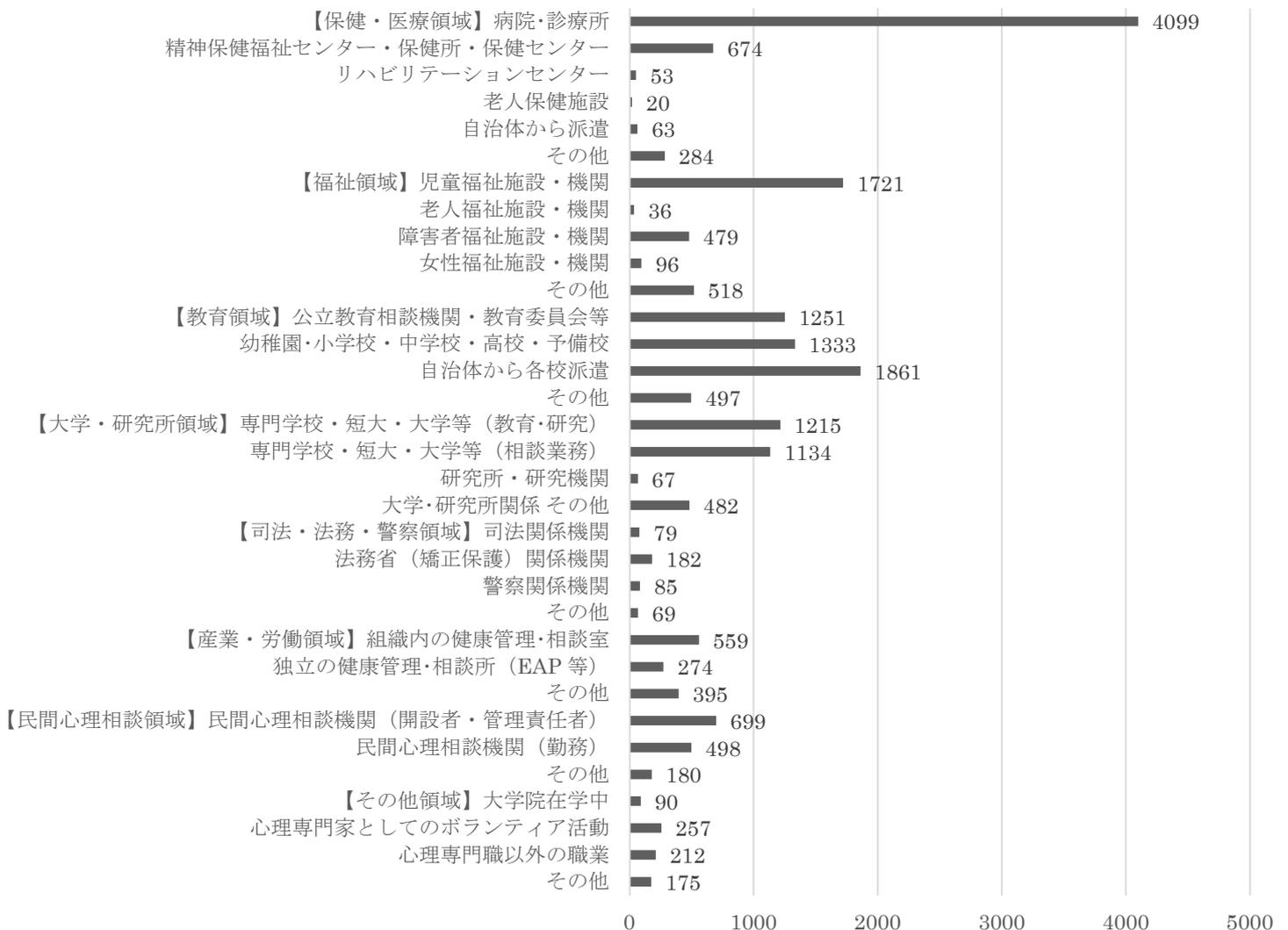


④ 勤務機関別に見た勤務者数〈表 20〉

※複数の領域にまたがって勤務している場合があるため、勤務者数の合計は11679人にはならない。

臨床心理士が最も多く勤務している機関は、病院・診療所の4,099人（全回答者数の37.2%）であり、続いて、自治体から派遣（スクールカウンセラー等）1,861人（同16.9%）、児童福祉施設・機関（児童相談所を含む）1,721人（同15.6%）、幼稚園・小学校・中学校・予備校1,333人（同12.1%）、公立教育相談機関・教育委員会等1,251人（同11.3%）、の順であった。

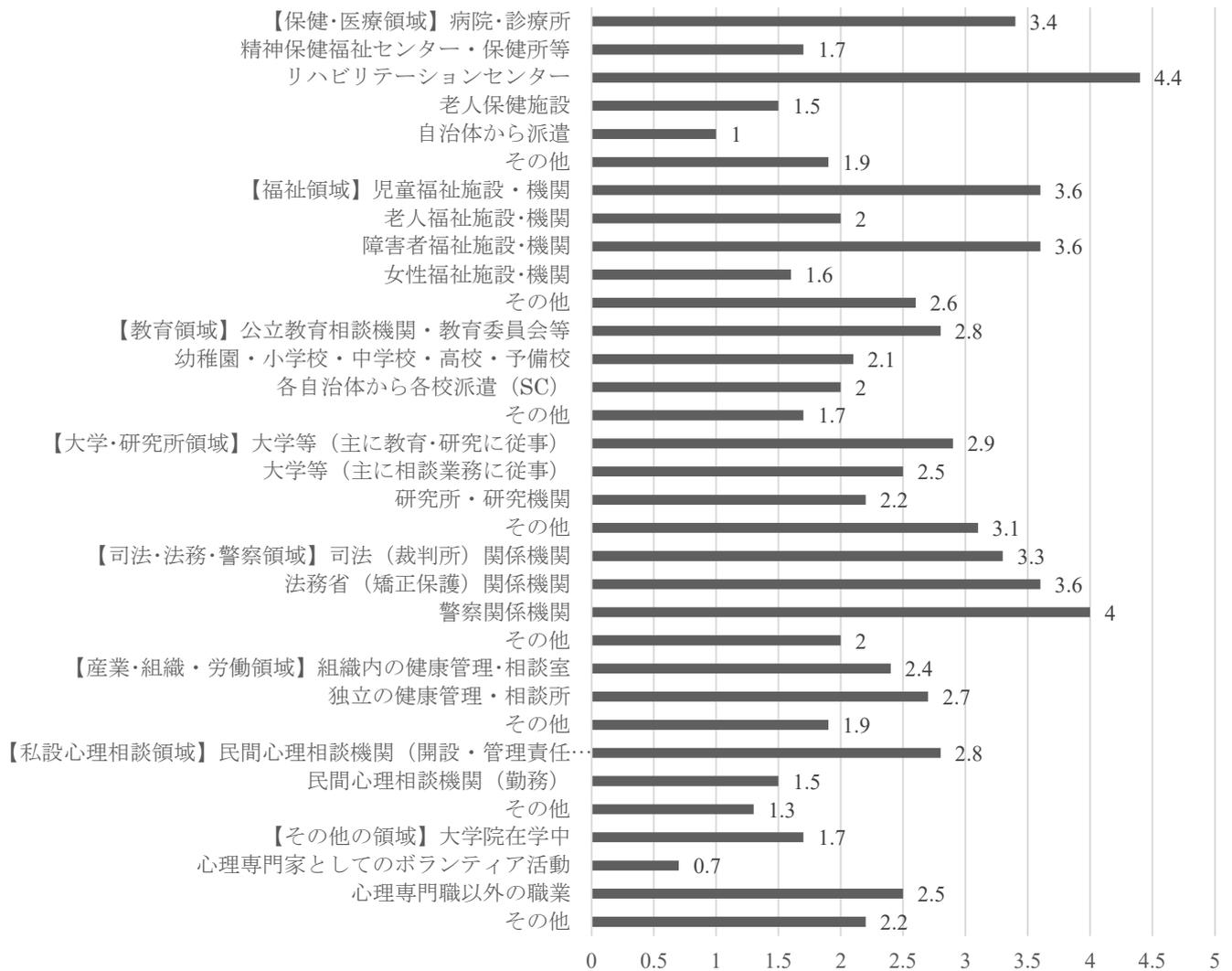
☆第8回動向調査の結果と比較すると、ほぼ同様の分布であった。



⑤ 機関別に見た平均勤務日数〈表 21〉

各機関において1人の臨床心理士が1週間あたり何日勤務しているかの平均値を、機関の種類別に示した。最も多いのは、リハビリテーションセンターの4.4日で、続いて、警察関係機関の4日、障害者福祉施設・機関、法務省（矯正保護）関係機関および児童福祉施設・機関の3.6日であった。また、少ないのは、心理専門家としてのボランティア活動0.7日、自治体からの派遣（HIV カウンセラー等）1日であった。

☆第8回動向調査とほぼ同様の結果であり、司法・法務・警察領域の機関で勤務する者は1週間あたりの勤務日数が多く、これらの機関では常勤者の割合が多いことを反映していると考えられる。



(4) 臨床心理関係の業務

① 臨床心理関係の業務内容〈表 22〉

※所属する全勤務機関を通算して、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の業務を行っているかを尋ねた設問である。

臨床心理面接：心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練などを含む（スーパービジョンは除く）。また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法など、さまざまな臨床心理学的援助技法を含む。

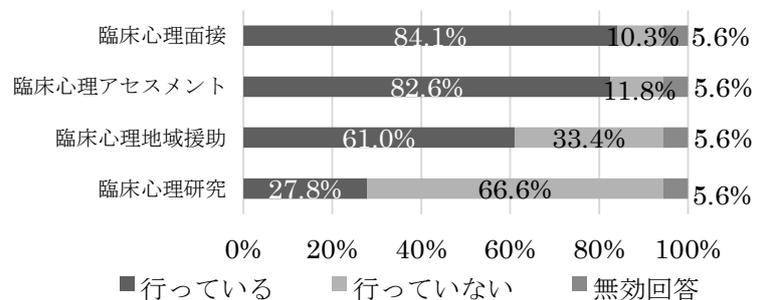
臨床心理アセスメント：諸種の心理検査、生活史や問題状況などについての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察などを含む。

臨床心理地域援助：より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師などを含む）。

臨床心理研究：心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表などを含む。

臨床心理面接は回答者全体の 84.1%、臨床心理アセスメントは 82.6%、臨床心理地域援助は 61.0%、臨床心理研究は 27.8%が行っていると回答した。

☆業務内容としては臨床心理面接の実施率が最も高く、これは第 8 回動向調査と同様の結果であり、臨床心理地域援助と臨床心理研究はわずかながら低下した。

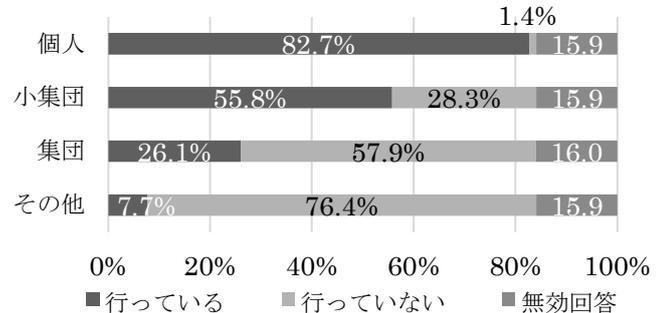


② 臨床心理面接の形態〈表 23〉

小集団：親子、夫婦、家族等

面接形態は割合の高い順に、個人 82.7%、親子・夫婦・家族等の小集団 55.8%、集団 26.1%であった。

☆第 8 回動向調査の結果とほぼ一致していた。



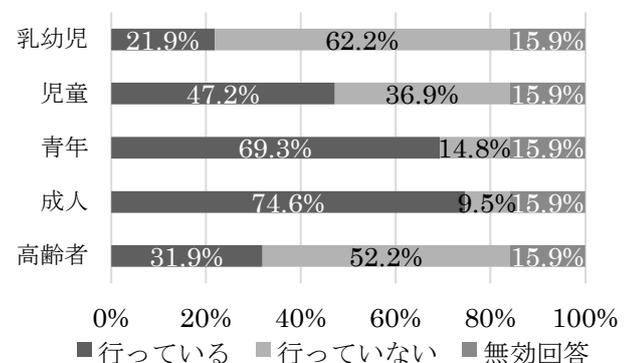
③ 臨床心理面接の対象〈表 24〉

児童：小学生年代

青年：中学生・高校生・大学生年代

面接の対象の割合としては、成人 74.6%と青年 69.3%が多く、次いで児童が 47.2%であった。

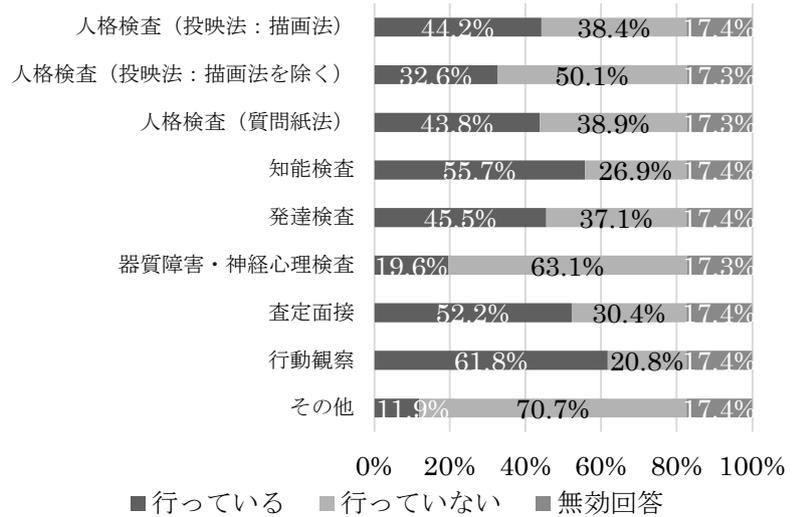
☆第 8 回動向調査とほぼ同様の結果であった。



④ 臨床心理アセスメントの種類〈表 25〉

行動観察の割合が 61.8%と最も高く、次いで知能検査が 55.7%、査定面接が 52.2%、発達検査が 45.5%、人格検査（投影法：描画法）44.2%、人格検査（質問紙法）43.8%の順であった。

☆全体的な傾向は第 8 回動向調査時とほぼ同様であったが、発達検査の順位が前回の 6 位から 4 位に上がった。

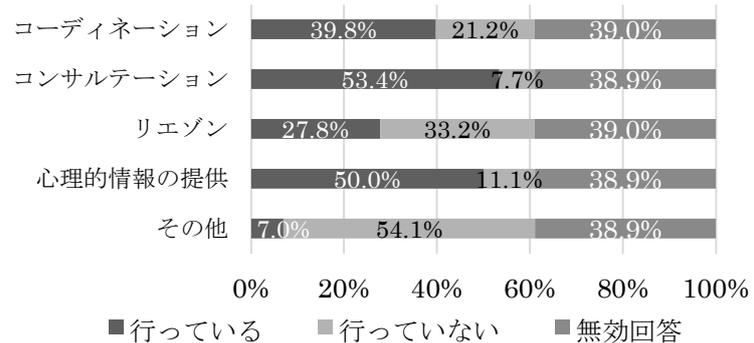


⑤ 臨床心理地域援助の種類 〈表 26〉

- コーディネーション：より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する。
- コンサルテーション：他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う。
- リエゾン：複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う。
- 心理的情報の提供：心理教育や講演会など。

地域援助の種類の種類としては、コンサルテーション 53.4%、心理的情報の提供 50.0%、コーディネーション 39.8%、リエゾン 27.8%の順に高かった。

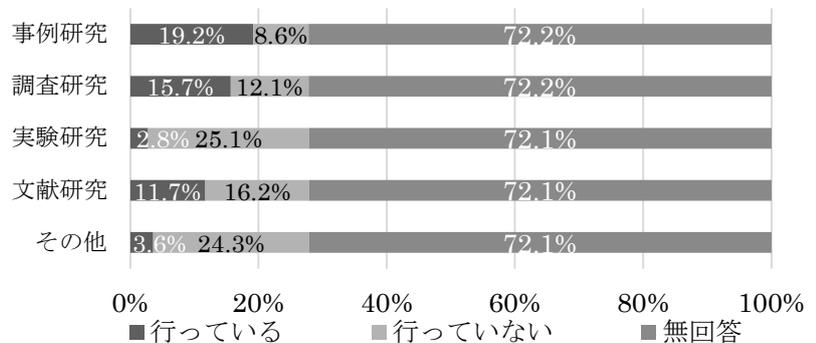
☆全体的な傾向は、前回調査時とほぼ同様であった。



⑥ 臨床心理研究の種類〈表 27〉

研究の種類は、事例研究 19.2%（前回 28.9%）、調査研究 15.7%（前回 18.2%）、文献研究 11.7%（前回 11.9%）、実験研究 2.8%（前回 3.3%）の順に高かった。

☆第 8 回動向調査時とほぼ同様の傾向であった。全体的な傾向は変わらないが、事例研究の割合が前回に比べて 9.7%低下した。



3-2-4 主たる勤務機関での業務内容

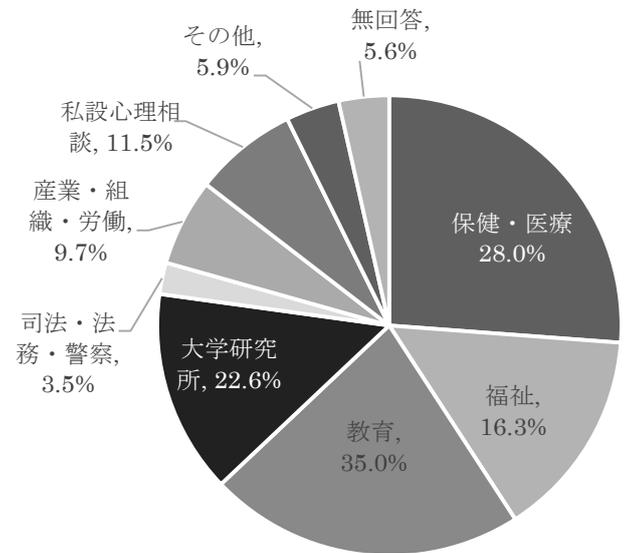
以下の「業務内容」は、回答者の主たる勤務機関での業務についての回答である。

(1) 待遇

① 主たる勤務領域〈表 28〉

主たる勤務領域の割合として最も高かったのは保健・医療領域の28.0%であり、次いで、教育領域の22.9%、福祉領域の16.3%、大学研究所領域の14.3%の順であった。

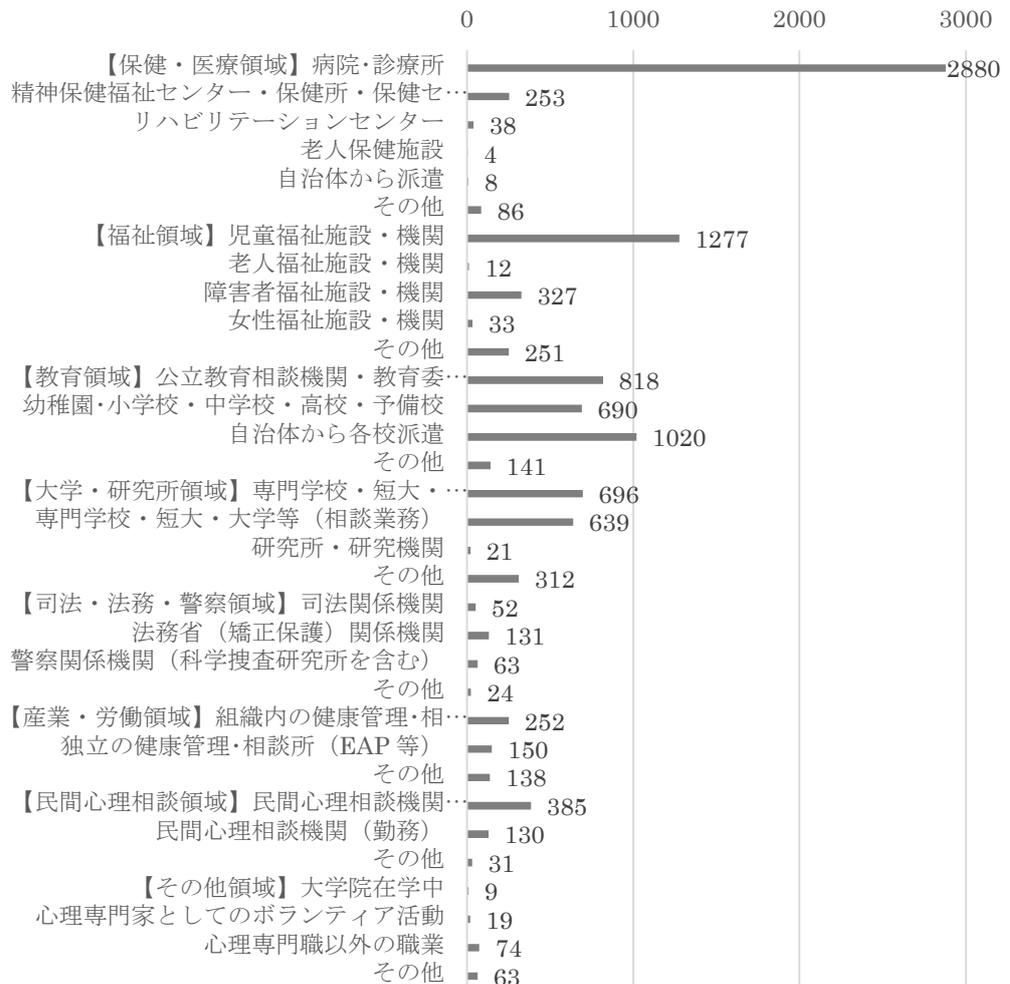
☆これらは前回調査時とほぼ同様の結果であったが、福祉領域と大学・研究所領域の順位が入れ替わった。



② 主たる勤務機関〈表 29〉

主たる勤務機関として割合が最も高かったのは、保健・医療領域における病院・診療所等の24.7%であった。続いて、福祉領域の児童福祉施設・機関の10.9%、教育領域における自治体から派遣（スクールカウンセラー等）の8.7%、の順となった。

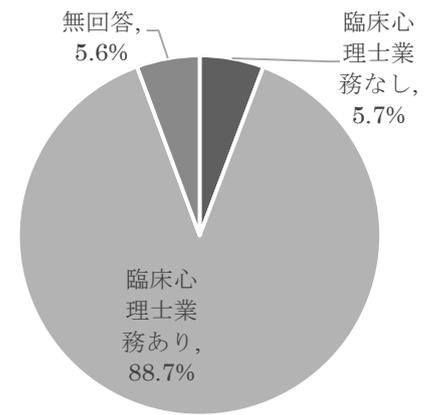
☆主たる勤務機関の分布は、第8回動向調査の結果とほぼ同様であった。



③ 主たる勤務機関での臨床心理業務の有無〈表 30〉

臨床心理業務があると回答した割合は88.7%、ないと回答が5.7%であった。

☆前回調査時と同様に、大多数の会員は臨床心理業務に従事していた。臨床心理業務がないとの回答は5.7%みられたが、ここには、臨床心理士資格を持ちながら他の専門資格職として勤務しているケースも含まれると考えられる。

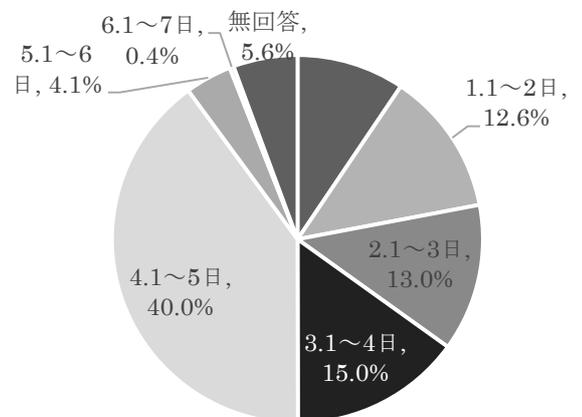


④ 主たる勤務機関での勤務日数〈表 31〉

※1週間あたりに換算した勤務日数を示す。半日の日がある場合は0.5日として計算する。

主たる勤務先での1週間あたりの勤務日数の割合は、4.1～5.0日が40.0%で最も高く、次いで3.1～4.0日の15.0%であった。

☆この結果は、第8回動向調査時の傾向とほぼ同様であった。

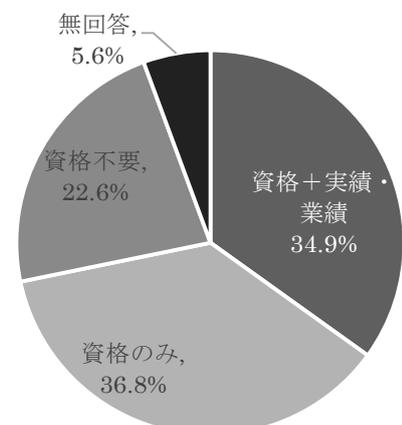


⑤ 主たる勤務機関での採用条件〈表 32〉

資格：臨床心理士資格

採用に臨床心理士資格が必要であった割合は、資格+実績・業績の34.9%と、資格のみの36.8%を合わせた71.7%であった。

☆第8回動向調査時とほぼ同様の結果であった。



⑥ 主たる勤務機関での学会参加の扱い〈表 33〉

業務扱い：業務のうちとして出張費等が出る。

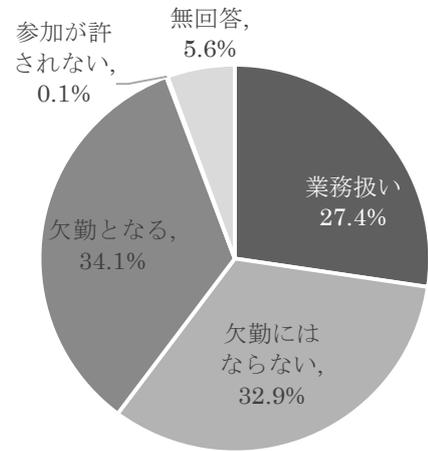
欠勤にはならない：出張費等が出ないが欠勤にはならない（有給休暇扱い、振替出勤を含む）

欠勤となる：欠勤扱いとなり収入が減る。

参加が許されない：参加が懲罰の対象となる。

学会参加の扱いの割合は、欠勤となる（収入が減る） 34.1%、出張費は出ないが欠勤にはならない（含. 有給休暇、振替出勤） 32.9%、業務のうちとして出張費が出る 27.4%、参加が許されない（懲罰の対象） 0.1%の順であった。

☆第8回動向調査時とおおよそ同様の結果であった。

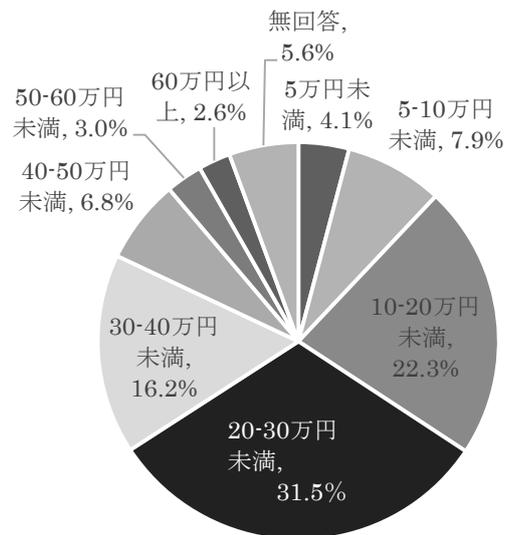


⑦ 主たる勤務機関の月収（税込）〈表 34〉

※月によって変動がある場合は、平均月収を示す。

主たる勤務機関からの収入の割合は、月収（税込み）20万円以上30万円未満が31.5%で最も高く、次いで10万円以上20万円以下が22.3%、30万円以上40万円未満が16.2%であった。

☆この結果は、第8回動向調査時とほぼ同様であった。

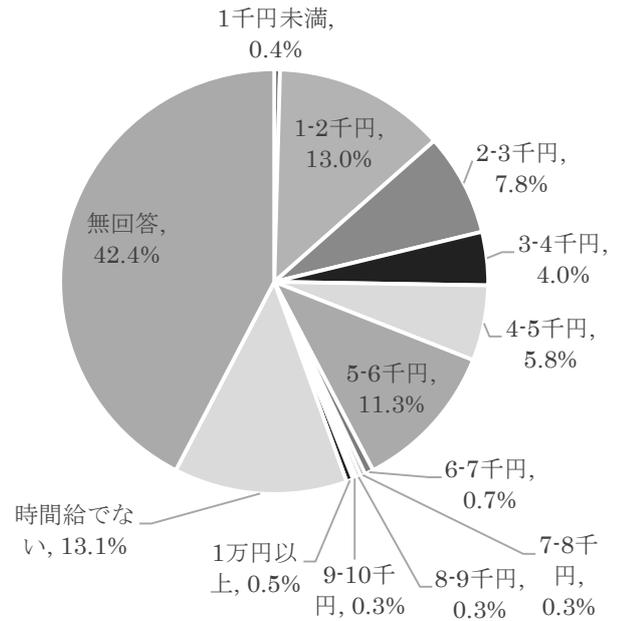


⑧ 主たる勤務機関の時間給〈表 35〉

時間給でない：月給や歩合制など、給与形態が時間給ではない

給与形態が時間給である割合は5,199人(44.5%)、うち、1,000円以上2,000円未満の13.0%と5,000円以上6,000円未満の11.3%の率が高い2峰性の分布となった。

☆第8回動向調査とほぼ同様の結果であった。



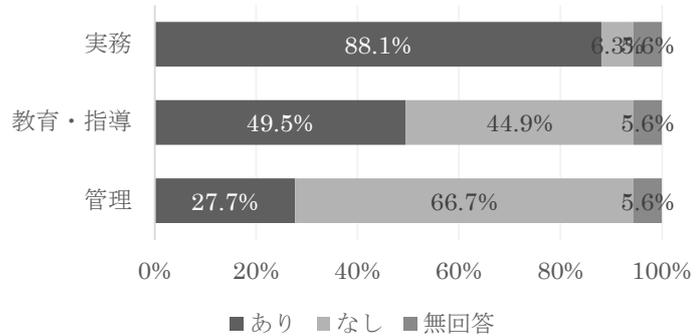
(2) 業務

① 主たる勤務機関での臨床心理関係業務の形態〈表 36〉

※ここでいう実務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種類の基本的専門業務である。

臨床心理の実務に携わっている割合は88.1%、教育・指導業務に携わっているのは49.5%、管理業務に携わっているのは27.7%であった。

☆第8回動向調査時とほぼ同様の結果であった。



② 主たる勤務機関での臨床心理関係業務の種類〈表 37〉

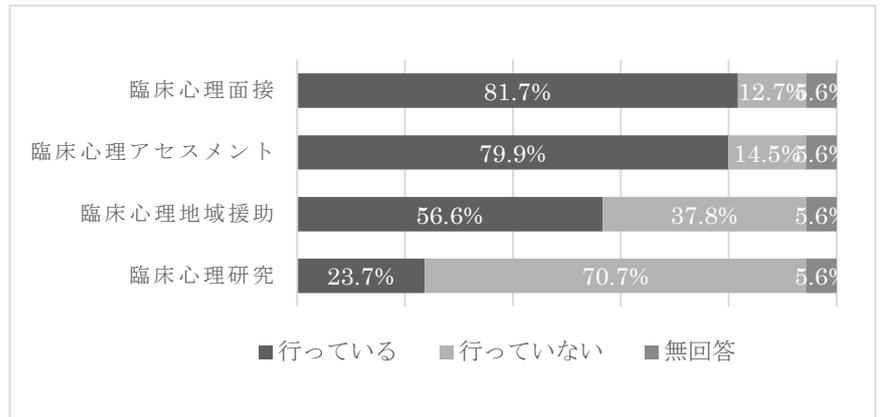
臨床心理面接： 心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練などを含む（スーパービジョンは除く）。また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法など、さまざまな臨床心理学的援助技法を含む。

臨床心理アセスメント： 諸種の心理検査、生活史や問題状況などについての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察などを含む。

臨床心理地域援助： より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーショ

ン、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）などを含む。

臨床心理研究： 心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表などを含む。



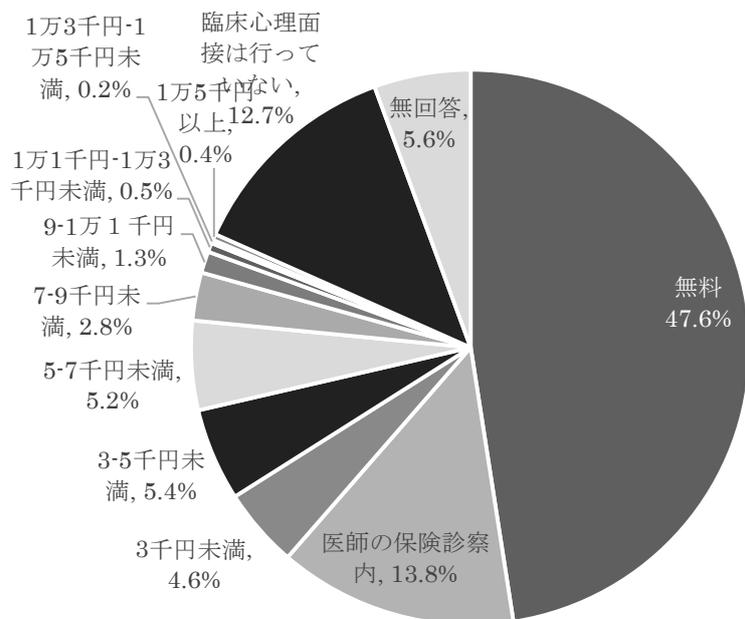
主たる勤務機関で臨床心理面接を行っている割合は81.7%であった。臨床心理アセスメントは79.9%、臨床心理地域援助は56.6%、臨床心理研究は23.7%が行っていた。

☆第8回動向調査時と同様に、無効回答の率が低下し、臨床心理研究を除き、各業務種類の割合がわずかながら上昇した。

③ 主たる勤務機関での臨床心理面接料金（消費税込）〈表 38〉

※ケースによって異なる場合は、最もよく支払われる金額を示す。

臨床心理面接料金の扱い別の割合は、無料が47.6%、医師の保険診察料金に含まれているが13.8%、有料（自費）が20.4%であった。有料（自費）のなかで金額別の割合は、3,000円以上5,000円未満が5.4%、5,000円以上7,000円未満が5.2%、3,000円未満が4.6%の順となった。



4. 自由記述について

本調査では、自由記述として、意見、感想等を100文字以内で記入いただいた。その結果、1,119件の記述があり、項目ごとに多数を占めたものを以下のとおり集約した。貴重な意見・要望等を寄せていただき、感謝申し上げますとともに、次回以降の調査はもちろんのこと、今後の当会の事業活動にできる限り反映してまいりたい。

項目	自由記述 (主なご意見、ご感想等)		
	件数	割合	
臨床心理士	99	8.8%	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士の専門性、独自性等をもっとPRして、公認心理師との差別化を求める 臨床心理士の待遇、雇用形態の改善を求める 臨床心理士として、スキルアップに繋がる様なモデルケースの公開を求める
日本臨床心理士会	84	7.5%	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士会で安定した職域の開拓・整備や待遇改善の働きかけをしてほしい 臨床心理士会で労働組合や健康保険組合の組織化を検討してほしい 臨床心理士の質を向上させ、心理面接の意義を広く社会に伝えてほしい 職能団体の統合を望む
職場・職域	228	20.4%	<ul style="list-style-type: none"> 非常勤、有期という不安定な雇用形態、低収入、社会保障、産休・育休等の福利厚生制度、退職金制度の不適用等に対する改善要望 診療報酬がとれるようにしてほしい 女性が出産・育児により退職した場合、職場復帰が困難
職業倫理	6	0.5%	<ul style="list-style-type: none"> 各県の事務局にトラブルや倫理問題へも迅速に対処できる体制が欲しい SNSでの偏った発信について対応して欲しい
研修・スーパービジョン	53	4.7%	<ul style="list-style-type: none"> オンライン研修を増やしてほしい 専門的な研修は多く開催されているが、スキルアップしていく形態の研修が少ないので増やしてほしい スーパービジョンを受けるためのシステムを作してほしい 給与の低さや職場の理解がなく、研修の機会がもてない
スクールカウンセラー	52	4.6%	<ul style="list-style-type: none"> スクールカウンセラーの勤務条件、社会保障の改善を望む
公認心理師	56	5.0%	<ul style="list-style-type: none"> 臨床心理士とダブル資格で両方の会費を支払うのは負担が大きいため、検討してほしい 臨床心理士との住み分けを明確にしてほしい 受験資格の範囲が狭く受験できなかった。救済措置を検討してほしい
資格認定協会	59	5.3%	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師協会に名称変更した県士会の研修ポイントが何群になるのか明確に公開してほしい 産休中・育休中の資格更新に対する条件緩和措置を講じてほしい 資格維持費を下げしてほしい 資格更新の手続きを電子化してほしい
動向調査	398	35.6%	<ul style="list-style-type: none"> 調査結果を知りたい 同じ様な質問が多く時間がかかるのと、回答しづらいものもあった 回答の補足 調査票の不具合に関する指摘 次回調査内容に関する要望

支援者養成	6	0.5%	<ul style="list-style-type: none"> ・若手への教育のあり方を検討すべき ・育成をしたいが、多忙さなどからモチベーションを保つことが難しい
その他	78	7.0%	<ul style="list-style-type: none"> ・回答者の近況報告
計	1,119		

5. おわりに

当会では、1995年12月に第1回の会員動向調査を実施し（会員数4,181人、回答数1,892人）、その後もほぼ3年ごとに会員の動向を追ってきた。前回の第8回調査は2019年10月（会員数21,383人、回答数11,208人）であった。2023年に実施した今回調査が第9回となる。2023年12月末までに11,679人から回答があった。その貴重なデータを、ようやくまとめてご報告できることとなった。回答いただいた会員に対して、改めて厚く御礼申し上げたい。国民全体の心の健康が大きな社会的課題となった今こそ、その一翼を担う臨床心理士のあり方について十分なデータを積み上げ、よりよい制度構築を目指すことが必要である。また、本データが会員に有効に活用され、役に立てていただければと願っている。

動向調査は、多数の臨床心理士の多様な状況について全体的に把握するために、できるだけ共通の質問項目を用意し、比較できるように作成を試みている。そのために、領域や勤務形態によっては回答しにくい質問項目があったことと思われる。調査の回を重ねるごとに、少しずつ改善・修正の試みを繰り返してきたが、まだまだこれからも改良を重ね、少しでも回答しやすい調査にしていきたいと考えている。また、全体を把握する動向調査と、特定の領域や問題を詳しく調べるための各種委員会からの調査とで棲み分けを図り、会として効率的な調査が行えるよう工夫してゆきたい。

次回の動向調査にも、臨床心理士の皆さまの引き続きの協力をお願いする。

資 料

資料1 : 集計表

資料 1-1 単純集計表

資料 1-2 クロス集計表 : 年齢階級別

資料 1-3 クロス集計表 : 領域・年齢階級別

資料2 : 第9回「臨床心理士の動向調査」調査票および回答用紙

資料 2-1 第9回「臨床心理士の動向調査」調査票

資料 2-2 第9回「臨床心理士の動向調査」回答用紙

資料1-1 単純集計表

表1 性別

	人数	%	有効%
男	2,633	22.5%	22.5%
女	8,881	76.0%	76.0%
回答しない	165	1.4%	1.4%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表2 年代

	人数	%	有効%
20代	757	6.5%	6.5%
30代	3,001	25.7%	25.7%
40代	3,609	30.9%	30.9%
50代	2,364	20.2%	20.2%
60代	1,427	12.2%	12.2%
70代	468	4.0%	4.0%
80代	53	0.5%	0.5%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表3 現住所

	人数	%	有効%
北海道地区	302	2.6%	2.6%
東北地区	559	4.8%	4.8%
関東地区	4,809	41.2%	41.2%
北陸中部地区	1,805	15.5%	15.5%
近畿地区	1,978	16.9%	16.9%
中国地区	819	7.0%	7.0%
四国地区	244	2.1%	2.1%
九州地区	982	8.4%	8.4%
沖縄地区	139	1.2%	1.2%
海外	42	0.4%	0.4%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

東北地区:青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島

関東地区:茨城, 栃木, 群馬, 埼玉, 千葉, 東京, 神奈川

北陸中部地区:新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨, 長野, 岐阜, 静岡, 愛知

近畿地区:三重, 滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山

中国地区:鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口

四国地区:徳島, 香川, 愛媛, 高知

九州地区:福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島

表4 最終学歴

	人数	%	有効%
大学卒業	863	7.4%	7.4%
修士課程修了	9,253	79.2%	79.2%
博士課程修了	1,502	12.9%	12.9%
その他	61	0.5%	0.5%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

大学卒業:4年制大学卒業

修士課程修了:6年制大学卒業, 博士課程中退を含む

博士課程修了:博士課程満期退学を含む

その他:専門学校卒業, 短大卒業

表5 最終学位

	人数	%	有効%
学士	860	7.4%	7.4%
修士	9,689	83.0%	83.0%
博士	787	6.7%	6.7%
専門職学位	314	2.7%	2.7%
学位は取得していない	29	0.2%	0.2%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表6 臨床心理業務の実務経験年数

	人数	%	有効%
5年未満	1,103	9.4%	9.4%
5年以上10年未満	2,353	20.1%	20.1%
10年以上15年未満	2,285	19.6%	19.6%
15年以上20年未満	2,163	18.5%	18.5%
20年以上	3,775	32.3%	32.3%
合計	11,679	100.0%	100.0%

大学, 大学院修士課程在学期間を除く

表7 臨床心理士資格取得年

	人数	%	有効%
1988～1990年	455	3.9%	3.9%
1991～1995年	415	3.6%	3.6%
1996～2000年	870	7.4%	7.4%
2001～2005年	2,141	18.3%	18.3%
2006～2010年	2,514	21.5%	21.5%
2011～2015年	2,306	19.7%	19.7%
2016～2019年	1,850	15.8%	15.8%
2020～2023年	1,128	9.7%	9.7%
合計	11,679	100.0%	100.0%

受験年ではなく、資格取得年である。

受験に関しては、1988年から1995年は経過措置期間で、書類審査のみによるB審査が行われている。1991年から筆記・面接試験によるA審査が開始され、1996年以降はA審査のみの実施となった。

表8 現在受けている研修

職場内での研修会・研究会等	人数	%	有効%
あり	6,093	52.2%	52.2%
なし	5,586	47.8%	47.8%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
職場内でのグループSV等	人数	%	有効%
あり	3,615	31.0%	31.0%
なし	8,064	69.0%	69.0%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
職場内での個人SV等	人数	%	有効%
あり	2,410	20.6%	20.6%
なし	9,269	79.4%	79.4%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
職場外での研修会・研究会等	人数	%	有効%
あり	10,870	93.1%	93.1%
なし	809	6.9%	6.9%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
職場外でのグループSV等	人数	%	有効%
あり	4,061	34.8%	34.8%
なし	7,618	65.2%	65.2%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
職場外での個人SV等	人数	%	有効%

あり	4,371	37.4%	37.4%
なし	7,308	62.6%	62.6%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表9 スーパービジョン頻度

	人数	%	有効%
定期的に、週に1回程度	291	2.5%	2.5%
定期的に、2週に1回程度	535	4.6%	4.6%
定期的に、月に1回程度	1,823	15.6%	15.6%
定期的に、年に数回程度	1,101	9.4%	9.4%
定期的ではないが現在受けている	1,104	9.5%	9.5%
現在は受けていない	5,330	45.6%	45.6%
SVを受けたことがない	1,495	12.8%	12.8%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

現在は受けていない:以前は受けていたが、現在は受けていない

表10 スーパービジョン費用

	人数	%	有効%
有料	3,546	30.4%	30.4%
無料	1,308	11.2%	11.2%
現在はSVを受けていない	6,825	58.4%	58.4%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0	100.0

表11 臨床心理士の育成・教育・指導

院生教育・指導等	人数	%	有効%
あり	1,702	14.6%	14.6%
なし	9,977	85.4%	85.4%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
個人指導・SV等	人数	%	有効%
あり	1,994	17.1%	17.1%
なし	9,685	82.9%	82.9%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
研修会・研究会講師等	人数	%	有効%
あり	1,942	16.6%	16.6%
なし	9,737	83.4%	83.4%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
その他	人数	%	有効%

あり	1,270	10.9%	10.9%
なし	10,409	89.1%	89.1%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

院生教育・指導等:大学院生(修士課程)の卒前教育・指導等
 個人指導・SV等:臨床心理士等の個人指導・SV等
 研修会・研究会講師等:臨床心理士等を対象とした研修会・研究会講師等

表 12 スーパービジョン件数(1週間あたり)

	人数	%	有効
0~0.4件	748	6.4%	22.1%
0.5~0.9件	894	7.7%	26.4%
1~1.4件	1,083	9.3%	32.0%
1.5~1.9件	36	0.3%	1.1%
2~2.9件	257	2.2%	7.6%
3~3.9件	138	1.2%	4.1%
4~4.9件	54	0.5%	1.6%
5件	87	0.7%	2.6%
6件	23	0.2%	0.7%
7件	11	0.1%	0.3%
8件	10	0.1%	0.3%
9件以上	48	0.4%	1.4%
無効回答	8,290	71%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

グループSVは構成人数に関わらず1件とカウントした。

表 13 心理専門職以外に所持する関連領域資格

資格	人数	%	有効
医師			
あり	399	3.4%	3.4%
なし	11,280	96.6%	96.6%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
看護師			
あり	177	1.5%	1.5%
なし	11,502	98.5%	98.5%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
社会福祉士			
あり	345	3.0%	3.0%
なし	11,334	97.0%	97.0%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
精神保健福祉士			
あり	620	5.3%	5.3%

なし	11,059	94.7%	94.7%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

言語聴覚士	人数	%	有効
あり	32	0.3%	0.3%
なし	11,647	99.7%	99.7%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

教諭	人数	%	有効
あり	3,003	25.7%	25.7%
なし	8,676	74.3%	74.3%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

その他	人数	%	有効
あり	1,954	16.7%	16.7%
なし	9,725	83.3%	83.3%
無回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表 14 公認心理師の取得(登録)状況

	人数	%	有効
取得(登録)した	10,646	91.2%	91.2%
取得(登録)する 予定	174	1.5%	1.5%
取得(登録)する 意思なし	587	5.0%	5.0%
受験資格なし	272	2.3%	2.3%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表 15 現在の就業形態

	人数	%	有効
常勤のみ	4,299	36.8%	36.8%
常勤+非常勤	1,427	12.2%	12.2%
非常勤のみ	5,301	45.4%	45.4%
現在は勤務していない	652	5.6%	5.6%
無効回答	0	0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

常勤:休職中を含む

現在は勤務していない:退職を含む

表 16～38 の「無効回答」には、表 15 における「現在は勤務していない」の 652 人(5.6%)を含むものとする。

表 16 年収

	人数	%	有効
100 万円未満	566	4.8%	5.1%
100 万円以上 200 万円未満	1,037	8.9%	9.4%
200 万円以上 300 万円未満	1,715	14.7%	15.6%
300 万円以上 400 万円未満	2,309	19.8%	20.9%
400 万円以上 500 万円未満	1,845	15.8%	16.7%
500 万円以上 600 万円未満	1,289	11.0%	11.7%
600 万円以上 700 万円未満	789	6.8%	7.2%
700 万円以上 800 万円未満	505	4.3%	4.6%
800 万円以上 900 万円未満	340	2.9%	3.1%
900 万円以上 1,000 万円未満	223	1.9%	2.0%
1,000 万円以上 1,200 万円未満	240	2.1%	2.2%
1,200 万円以上 1,500 万円未満	105	0.9%	1.0%
1,500 万円以上	64	0.5%	0.6%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

年収:2024 年度見込み

私設心理相談の場合の必要経費は除く。

表 17 勤務領域別に見た勤務者数

	人数	%
保健・医療領域	4,851	44.0%
福祉領域	2,721	24.7%
教育領域	4,083	37.0%
大学・研究所領域	2,645	24.0%
司法・法務・警察領域	408	3.7%
産業・組織・労働領域	1,130	10.2%
私設心理相談領域	1,340	12.2%
その他の領域	691	6.3%

その他の領域:大学院在学中、心理専門家としてのボランティア活動、心理専門職以外の職業、その他

パーセンテージの分母は、無効回答を除いた 11,027 人である。

1 人の臨床心理士が複数の領域で勤務していることがあるため、人数の合計は 11,027 人にはならない。

表 18 勤務領域数(1 人あたり)

	人数	%	有効
1 領域	6400	54.8%	58.0%
2 領域	3002	25.7%	27.2%
3 領域	1162	9.9%	10.5%
4 領域	362	3.1%	3.3%
5 領域	80	0.7%	0.7%
6 領域	18	0.2%	0.2%
7 領域	1	0.0%	0.0%
8 領域	2	0.0%	0.0%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

複数の勤務機関に所属していても、同一領域の機関であれば 1 領域。

表 19 勤務機関数(1 人あたり)

	人数	%	有効
1 機関	5908	50.6%	53.6%
2 機関	2882	24.7%	26.1%
3 機関	1446	12.4%	13.1%
4 機関	509	4.4%	4.6%
5 機関	165	1.4%	1.5%
6 機関	76	0.7%	0.7%
7 機関	23	0.2%	0.2%
8 機関	14	0.1%	0.1%
9 機関	3	0.0%	0.0%
10 機関以上	1	0.0%	0.0%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0	100.0

表 20 勤務機関別に見た勤務者数

	人数	%
保健・医療領域	4,851	44.0%
病院・診療所	4,099	37.2%
精神保健福祉センター・保健所等	674	6.1%
リハビリテーションセンター	53	0.5%
老人保健施設	20	0.2%
自治体から派遣(HIV カウンセラー等)	63	0.6%
保健・医療関係その他	284	2.6%
福祉領域	2,721	24.7%
児童福祉施設・機関(含. 児童相談所)	1,721	15.6%
老人福祉施設・機関	36	0.3%
障害者福祉施設・機関	479	4.3%
女性福祉施設・機関	96	0.9%
福祉関係 その他	518	4.7%

教育領域	4,083	37.0%
公立教育相談機関・教育委員会等	1,251	11.3%
幼稚園・小学校・中学校・高校・予備校	1,333	12.1%
各自治体から各校派遣(SC)	1,861	16.9%
教育関係 その他	497	4.5%
大学・研究所領域	2,645	24.0%
大学等(主に教育・研究に従事)	1,215	11.0%
大学等(主に相談業務に従事)	1,134	10.3%
研究所・研究機関	67	0.6%
大学・研究所関係 その他	482	4.4%
司法・法務・警察領域	408	3.7%
司法(裁判所)関係機関	79	0.7%
法務省(矯正保護)関係機関	182	1.7%
警察関係機関(含. 科捜研)	85	0.8%
司法・法務・警察関係 その他	69	0.6%
産業・組織・労働領域	1,130	10.2%
組織内の健康管理・相談室	559	5.1%
独立の健康管理・相談所(EAP等)	274	2.5%
産業・労働関係 その他	395	3.6%
私設心理相談領域	1,340	12.2%
民間心理相談機関(開設・管理責任者)	699	6.3%
民間心理相談機関(勤務)	498	4.5%
民間心理相談関係 その他	180	1.6%
その他の領域	691	6.3%
大学院在学中	90	0.8%
心理専門家としてのボランティア活動	257	2.3%
心理専門職以外の職業	212	1.9%
その他	175	1.6%

精神保健福祉センター・保健所等:精神保健福祉センター, 保健所, 保健センター

大学等(主に教育・研究に従事):専門学校, 短大, 大学等(主に教育・研究に従事)

大学等(主に相談業務に従事):専門学校, 短大, 大学等(主に相談業務に従事)

パーセンテージの分母は、無効回答を除いた 11,027 人である。

勤務領域別に見た勤務者数については、(表 18)の再掲である。

ただし、1 人の臨床心理士が複数の機関で勤務していることがあるため、各領域内での勤務者数の合計は(表 18)と一致せず、全機関の勤務者数の合計も 11,027 人にはならない。

表 21 機関別に見た平均勤務日数

保健・医療領域	日/週
病院・診療所	3.4
精神保健福祉センター・保健所等	1.7
リハビリテーションセンター	4.4
老人保健施設	1.5
自治体から派遣(HIV カウンセラー等)	1.0
その他	1.9
福祉領域	日/週
児童福祉施設・機関(含. 児童相談所)	3.6
老人福祉施設・機関	2.0
障害者福祉施設・機関	3.6
女性福祉施設・機関	1.6
その他	2.6
教育領域	日/週
公立教育相談機関・教育委員会等	2.8
幼稚園・小学校・中学校・高校・予備校	2.1
各自治体から各校派遣(SC)	2.0
その他	1.7
大学・研究所領域	日/週
大学等(主に教育・研究に従事)	2.9
大学等(主に相談業務に従事)	2.5
研究所・研究機関	2.2
その他	3.1
司法・法務・警察領域	日/週
司法(裁判所)関係機関	3.3
法務省(矯正保護)関係機関	3.6
警察関係機関(含. 科捜研)	4.0
その他	2.0
産業・組織・労働領域	日/週
組織内の健康管理・相談室	2.4
独立の健康管理・相談所(EAP等)	2.7
その他	1.9
私設心理相談領域	日/週
民間心理相談機関(開設・管理責任者)	2.8
民間心理相談機関(勤務)	1.5
その他	1.3
その他の領域	日/週
大学院在学中	1.7
心理専門家としてのボランティア活動	0.7
心理専門職以外の職業	2.5
その他	2.2

精神保健福祉センター・保健所等:精神保健福祉センター, 保健所, 保健センター

大学等(主に教育・研究に従事):専門学校, 短大, 大学等(主に教育・研究に従事)

大学等(主に相談業務に従事):専門学校, 短大, 大学等(主に相談業務に従事)

表 22 臨床心理関係の業務内容

臨床心理面接	人数	%	有効
あり	9,822	84.1%	89.1%
なし	1205	10.3%	10.9%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
臨床心理アセスメント	人数	%	有効
あり	9,652	82.6%	87.5%
なし	1,375	11.8%	12.5%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
臨床心理地域援助	人数	%	有効
あり	7,130	61.0%	64.7%
なし	3,897	33.4%	35.3%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
臨床心理研究	人数	%	有効
あり	3,252	27.8%	29.5%
なし	7,775	66.6%	70.5%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

所属する全勤務機関を通算して、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の業務を行っているかを尋ねた設問。

臨床心理面接:心理療法, 心理相談, 心理カウンセリング, 心理指導, 心理訓練などを含む(スーパービジョンは除く)。また, 来談者中心療法, 行動療法, 精神分析, 夢分析, 箱庭療法, 遊戯療法, 芸術療法, 家族療法, 臨床動作法など, さまざまな臨床心理学的援助技法を含む。

臨床心理アセスメント:諸種の心理検査, 生活史や問題状況などについての査定面接, 生活場面や遊戯場面, グループ場面での行動観察などを含む。

臨床心理地域援助:より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション, 他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン, 一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)などを含む。

臨床心理研究:心の問題への援助を行っていくうえで, 技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる, 臨床心理的調査や研究活動, 研究発表, 事例発表などを含む。

表 23 臨床心理面接の形態

個人	人数	%	有効
あり	9,662	82.7%	98.4%
なし	159	1.4%	1.6%
無回答	1,858	15.9%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
親子, 夫婦, 家族等の小集団	人数	%	有効
あり	6,512	55.8%	66.3%
なし	3,309	28.3%	33.7%
無回答	1,858	15.9%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
集団	人数	%	有効
あり	3,054	26.1%	31.1%
なし	6,767	57.9%	68.9%
無回答	1,858	16.0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
その他	人数	%	有効
あり	896	7.7%	9.1%
なし	8,925	76.4%	90.9%
無回答	1,858	15.9%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表 24 臨床心理面接の対象

乳幼児	人数	%	有効
あり	2,559	21.9%	26.1%
なし	7,263	62.2%	73.9%
無回答	1,857	15.9%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
児童	人数	%	有効
あり	5,509	47.2%	56.1%
なし	4,313	36.9%	43.9%
無回答	1,857	15.9%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
青年	人数	%	有効
あり	8,096	69.3%	82.4%
なし	1,726	14.8%	17.6%
無回答	1,857	15.9%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
成人	人数	%	有効
あり	8,708	74.6%	88.7%
なし	1,114	9.5%	11.3%
無回答	1,857	15.9%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

高齢者	人数	%	有効
あり	3,724	31.9%	37.9%
なし	6,098	52.2%	62.1%
無回答	1,857	15.9%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

児童:小学生年代

青年:中学生・高校生・大学生年代

表 25 臨床心理アセスメントの種類

人格検査(投映法:描画法)	人数	%	有効
あり	5,166	44.2%	53.5%
なし	4,486	38.4%	46.5%
無回答	2,027	17.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
人格検査(投映法:描画法を 除く)	人数	%	有効
あり	3,806	32.6%	39.4%
なし	5,846	50.1%	60.6%
無回答	2,027	17.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
人格検査(質問紙法)	人数	%	有効
あり	5,113	43.8%	53.0%
なし	4,539	38.9%	47.0%
無回答	2,027	17.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
知能検査	人数	%	有効
あり	6,511	55.7%	67.5%
なし	3,141	26.9%	32.5%
無回答	2,027	17.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
発達検査	人数	%	有効
あり	5,317	45.5%	55.1%
なし	4,335	37.1%	44.9%
無回答	2,027	17.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
器質障害・神経心理検査	人数	%	有効
あり	2,285	19.6%	23.7%
なし	7,367	63.1%	76.3%
無回答	2,027	17.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
査定面接	人数	%	有効
あり	6,098	52.2%	63.2%
なし	3,554	30.4%	36.8%
無回答	2,027	17.4%	—

合計	人数	%	有効
行動観察	7,223	61.8%	74.8%
なし	2,429	20.8%	25.2%
無回答	2,027	17.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
その他	人数	%	有効
あり	1,391	11.9%	14.4%
なし	8,261	70.7%	85.6%
無回答	2,027	17.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表 26 臨床心理地域援助の種類

コーディネーション	人数	%	有効
あり	4,654	39.8%	65.3%
なし	2,476	21.2%	34.7%
無回答	4,549	39.0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
コンサルテーション	人数	%	有効
あり	6,234	53.4%	87.4%
なし	896	7.7%	12.6%
無回答	4,549	39.0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
リエゾン	人数	%	有効
あり	3,249	27.8%	45.6%
なし	3,881	33.2%	54.4%
無回答	4,549	39.0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
心理的情報の提供	人数	%	有効
あり	5,836	50.0%	81.9%
なし	1,294	11.1%	18.1%
無回答	4,549	39.0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
その他	人数	%	有効
あり	814	7.0%	11.4%
なし	6,316	54.1%	88.6%
無回答	4,549	39.0%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

コーディネーション:より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する。

コンサルテーション:他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う。

リエゾン:複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う。

心理的情報の提供:心理教育や講演会など。

表 27 臨床心理研究の種類

事例研究	人数	%	有効
あり	2,244	19.2%	69.0%
なし	1,008	8.6%	31.0%
無回答	8,427	72.2%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
調査研究	人数	%	有効
あり	1,837	15.7%	56.5%
なし	1,415	12.1%	43.5%
無回答	8,427	72.2%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
実験研究	人数	%	有効
あり	322	2.8%	9.9%
なし	2930	25.1%	90.1%
無回答	8,427	72.2%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
文献研究	人数	%	有効
あり	1,362	11.7%	41.9%
なし	1,890	16.2%	58.1%
無回答	8,427	72.2%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
その他	人数	%	有効
あり	419	3.6%	12.9%
なし	2,833	24.3%	87.1%
無回答	8,427	72.2%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表 28～39 は、「主たる勤務機関」のみに限定した回答である。

表 28 主たる勤務領域

	人数	%	有効
保健・医療領域	3,269	28.0%	29.6%
福祉領域	1,900	16.3%	17.2%
教育領域	2,669	22.9%	24.2%
大学・研究所領域	1,668	14.3%	15.1%
司法・法務・警察領域	270	2.3%	2.5%
産業・組織・労働領域	540	4.6%	4.9%
私設心理相談領域	546	4.7%	5.0%
その他の領域	165	1.4%	1.5%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

その他の領域: 大学院在学中, 心理専門家としてのボランティア活動, 心理専門職以外の職業, その他

表 29 主たる勤務機関

	人数	%	有効
保健・医療領域	3,269	28.0%	29.6%
病院・診療所	2,880	24.7%	26.1%
精神保健福祉センター等	253	2.2%	2.3%
リハビリテーションセンター	38	0.3%	0.3%
老人保健施設	4	0.0%	0.0%
自治体から派遣(HIV等)	8	0.1%	0.1%
その他	86	0.7%	0.8%
福祉領域	1,900	16.3%	17.2%
児童福祉施設・機関	1,277	10.9%	11.6%
老人福祉施設・機関	12	0.1%	0.1%
障害者福祉施設・機関	327	2.8%	3.0%
女性福祉施設・機関	33	0.3%	0.3%
その他	251	2.1%	2.3%
教育領域	2,669	22.9%	24.2%
公立教育相談機関等	818	7.0%	7.4%
幼・小・中・高・予備校	690	5.9%	6.3%
各自治体から各校派遣(SC)	1,020	8.7%	9.3%
その他	141	1.2%	1.3%
大学・研究所領域	1,668	14.3%	15.1%
大学等(教育・研究)	696	6.0%	6.3%
大学等(相談業務)	639	5.5%	5.8%
研究所・研究機関	21	0.2%	0.2%
その他	312	2.7%	2.0%

司法・法務・警察領域	270	2.3%	2.4%
司法関係機関	52	0.4%	0.5%
法務省関係機関	131	1.1%	1.2%
警察関係機関	63	0.5%	0.6%
その他	24	0.2%	0.2%
産業・組織・労働領域	540	4.6%	4.9%
組織内健康管理・相談室	252	2.2%	2.3%
独立の健康管理(EAP等)	150	1.3%	1.4%
その他	138	1.2%	1.3%
私設心理相談領域	546	4.7%	5.0%
民間(開設・管理責任者)	385	3.3%	3.5%
民間(勤務)	130	1.1%	1.2%
その他	31	0.3%	0.3%
その他の領域	165	1.4%	1.5%
大学院在学中	9	0.1%	0.1%
ボランティア活動	19	0.2%	0.2%
心理専門職以外	74	0.6%	0.7%
その他	63	0.5%	0.6%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

精神保健福祉センター等:精神保健福祉センター,保健所,保健センター
 自治体から派遣(HIV等):自治体から派遣(HIVカウンセラー等)
 児童福祉施設・機関:児童福祉施設・機関(含.児童相談所)
 公立教育相談機関等:公立教育相談機関,教育委員会等
 幼・小・中・高・予備校:幼稚園,小学校,中学校,高校,予備校
 大学等(教育・研究):専門学校,短大,大学等(主に教育・研究に従事)
 大学等(相談業務):専門学校,短大,大学等(主に相談業務に従事)
 司法関係機関:司法(裁判所)関係機関
 法務省関係機関:法務省(矯正保護)関係機関
 警察関係機関:警察関係機関(含.科捜研)
 独立の健康管理(EAP等):独立の健康管理・相談所(EAP等)
 民間(開設・管理責任者):民間心理相談機関(開設・管理責任者)
 民間(勤務):民間心理相談機関(勤務)
 ボランティア活動:心理専門家としてのボランティア活動
 心理専門職以外:心理専門職以外の職業

表 30 主たる勤務機関での臨床心理業務の有無

	人数	%	有効%
あり	10,364	88.7%	94.0%
なし	663	5.7%	6.0%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

臨床心理業務:4種の基本的専門業務(臨床心理面接,臨床心理アセスメント,臨床心理地域援助,臨床心理研究)のいずれかを行っていること

表 31 主たる勤務機関での勤務日数

	人数	%	有効%
0.1日～1日	1,098	9.4%	10.0%
1.1日～2日	1,473	12.6%	13.4%
2.1日～3日	1,513	13.0%	13.7%
3.1日～4日	1,753	15.0%	15.9%
4.1日～5日	4,672	40.0%	42.4%
5.1日～6日	477	4.1%	4.3%
6.1日～7日	41	0.4%	0.4%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表 32 主たる勤務機関での採用条件

	人数	%	有効%
資格+実績・業績	4,081	34.9%	37.0%
資格のみ	4,302	36.8%	39.0%
資格不要	2,644	22.6%	24.0%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

資格+実績・業績:臨床心理士であること(含.取得見込み)に加えて,一定の実績・業績のあることが条件であった。

資格のみ:臨床心理士であること(含.取得見込み)が条件であった。

資格不要:臨床心理士であることは条件ではなかった。

表 33 主たる勤務機関での学会参加の扱い

	人数	%	有効%
業務扱い	3,195	27.4%	29.0%
欠勤にはならない	3,840	32.9%	34.8%
欠勤となる	3,979	34.1%	36.1%
参加が許されない	13	0.1%	0.1%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

業務扱い:業務のうちとして,出張費等が出る

欠勤にはならない:出張費は出ないが,欠勤にはならない(含.有給休暇扱い,振替出勤)

欠勤となる:欠勤となる(収入が減る)

参加が許されない:参加が許されない(懲罰の対象となる)

表 34 主たる勤務機関の月収

	人数	%	有効%
5万円未満	478	4.1%	4.3%
5万円以上10万円未満	924	7.9%	8.4%
10万円以上20万円未満	2,604	22.3%	23.6%
20万円以上30万円未満	3,682	31.5%	33.4%

30万円以上40万円未満	1,896	16.2%	17.2%
40万円以上50万円未満	795	6.8%	7.2%
50万円以上60万円未満	345	3.0%	3.1%
60万円以上	303	2.6%	2.7%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,027	100.0%	100.0%

月によって変動がある場合は、平均月収を示す。

表 35 主たる勤務機関の時間給

	人数	%	有効%
1,000円未満	52	0.4%	0.8%
1,000円以上2,000円未満	1,517	13.0%	22.5%
2,000円以上3,000円未満	909	7.8%	13.5%
3,000円以上4,000円未満	473	4.1%	7.0%
4,000円以上5,000円未満	672	5.8%	10.0%
5,000円以上6,000円未満	1,324	11.3%	19.7%
6,000円以上7,000円未満	79	0.7%	1.2%
7,000円以上8,000円未満	40	0.3%	0.6%
8,000円以上9,000円未満	39	0.3%	0.6%
9,000円以上10,000円未満	33	0.3%	0.5%
10,000円以上	61	0.5%	0.9%
時間給でない	1,529	13.1%	22.7%
無効回答	4,951	42.4%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

時間給でない：給与形態が時間給でない（月極や歩合制等）

表 36 主たる勤務機関での臨床心理関係業務の形態

実務	人数	%	有効%
あり	10,289	88.1%	93.3%
なし	738	6.3%	6.7%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,027	100.0%	100.0%
教育・指導	人数	%	有効%
あり	5,782	49.5%	52.4%
なし	5,245	44.9%	47.6%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,027	100.0%	100.0%
管理	人数	%	有効%
あり	3,234	27.7%	29.3%
なし	7,793	66.7%	70.7%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,027	100.0%	100.0%

実務：臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を自身が行っている。

表 37 主たる勤務機関での臨床心理関係業務の種類

臨床心理面接	人数	%	有効%
あり	9,541	81.7%	86.5%
なし	1,486	12.7%	13.4%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
臨床心理アセスメント	人数	%	有効%
あり	9,337	79.9%	84.7%
なし	1,690	14.6%	15.3%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
臨床心理地域援助	人数	%	有効%
あり	6,611	56.6%	60.0%
なし	4,416	37.8%	40.0%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%
臨床心理研究	人数	%	有効%
あり	2,765	23.7%	25.1%
なし	8,262	70.7%	74.9%
無回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

表 38 主たる勤務機関での臨床心理面接料金

	人数	%	有効%
無料	5,555	47.6%	50.4%
医師の保険診療内	1,612	13.8%	14.6%
3,000円未満	537	4.6%	4.9%
3,000円以上5,000円未満	631	5.4%	5.7%
5,000円以上7,000円未満	606	5.2%	5.5%
7,000円以上9,000円未満	326	2.8%	3.0%
9,000円以上11,000円未満	147	1.3%	1.3%
11,000円以上13,000円未満	63	0.5%	0.6%
13,000円以上15,000円未満	23	0.2%	0.2%
15,000円以上	41	0.4%	0.4%
臨床心理面接は行っていない	1,486	12.7%	13.5%
無効回答	652	5.6%	—
合計	11,679	100.0%	100.0%

臨床心理面接料金は消費税込みの金額を示す。

ケースによって異なる場合は、最もよく支払われる金額について回答。

資料1-2 クロス集計表：年齢階級別

年齢階級別の集計については、無回答を除いた有効回答のみについて示すため、合計人数は各表によって異なる。

表 39 現在受けている研修:年齢階級別

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	合計	
研究会・研究会等	職場内での あり	(人)	412	1,486	1,889	1,273	776	240	17	6,093
		(%)	54.4%	49.5%	52.3%	53.8%	54.4%	51.3%	32.1	52.2%
	なし	(人)	345	1,515	1,720	1,091	651	228	36	5,586
		(%)	45.6%	50.5%	47.7%	46.2%	45.6%	48.7%	67.9	47.8%
合計		(人)	757	3,001	3,609	2,364	1,427	468	53	11,679
		(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.0%
グループSV等	職場内での あり	(人)	246	905	1,048	778	472	151	15	3,615
		(%)	32.5%	30.2%	29.0%	32.9%	33.1%	32.3%	28.3%	31.0%
	なし	(人)	511	2,096	2,561	1,586	955	317	38	8,064
		(%)	67.5%	69.8%	71.0%	67.1%	66.9%	67.7%	71.1%	69.0%
合計		(人)	757	3,001	3,609	2,364	1,427	468	53	11,679
		(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.0%
個人SV等	職場内での あり	(人)	235	617	594	483	353	117	11	2,410
		(%)	31.0%	20.6%	16.5%	20.4%	24.7%	25.0%	20.8%	20.6%
	なし	(人)	522	2,384	3,015	1,881	1,074	351	42	9,269
		(%)	69.0%	79.4%	83.5%	79.6%	75.3%	75.0%	79.2%	79.4%
合計		(人)	757	3,001	3,609	2,364	1,427	468	53	11,679
		(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.0%
研究会・研究会等	職場外での あり	(人)	697	2,764	3,392	2,238	1,324	415	40	10,870
		(%)	92.1%	92.1%	94.0%	94.7%	92.8%	88.7%	75.5	93.1%
	なし	(人)	60	237	217	126	103	53	13	809
		(%)	7.9%	7.9%	6.0%	5.3%	7.2%	11.3%	24.5	6.9%
合計		(人)	757	3,001	3,609	2,364	1,427	468	53	11,679
		(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.0%
グループSV等	職場外での あり	(人)	205	834	1,216	682	949	209	22	4,061
		(%)	27.1%	27.8%	33.7%	34%	40.1%	44.7%	41.5%	34.8%
	なし	(人)	552	2,167	2,393	1,334	1,415	259	31	7,618
		(%)	72.9%	72.2%	66.3%	66%	59.9%	55.3%	58.5%	65.2%
合計		(人)	757	3,001	3,609	2,364	1,427	468	53	11,679
		(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.0%
個人SV等	職場外での あり	(人)	341	1,123	1,243	899	581	170	14	4,371
		(%)	45.0%	37.4%	34.4%	38.0%	40.7%	36.3%	26.4%	37.4%
	なし	(人)	416	1,878	2,366	1,465	846	298	39	7,308
		(%)	55.0%	62.6%	65.6%	62.0%	59.3%	63.7%	73.6%	62.6%
合計		(人)	757	3,001	3,609	2,364	1,427	468	53	11,679
		(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100.0%

表 40 スーパービジョン件数(1週間あたり):年齢階級別

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	合計
0~0.4件	(人)	9	104	244	202	133	48	8	748
	(%)	18.4%	20.0%	22.0%	23.5%	21.9%	22.6%	26.7%	22.1%
0.5~0.9件	(人)	16	143	293	211	166	61	4	894
	(%)	32.7%	27.5%	26.4%	24.5%	27.3%	28.8%	13.3%	26.4%
1~1.4件	(人)	18	209	386	228	174	56	12	1083
	(%)	36.7%	40.2%	34.8%	26.5%	28.6%	26.4%	40.0%	32.0%
1.5~1.9件	(人)	0	4	11	7	7	7	0	36
	(%)	-	0.8%	1.0%	0.8%	1.2%	3.3%	-	1.1%
2~2.9件	(人)	3	30	79	85	41	16	3	257
	(%)	6.1%	5.8%	7.1%	9.9%	6.7%	7.5%	10.0%	7.6%
3~3.9件	(人)	0	14	43	41	33	6	1	138
	(%)	-	2.7%	3.9%	4.8%	5.4%	2.8%	3.3%	4.1%
4~4.9件	(人)	1	6	12	16	15	4	0	54
	(%)	2.0%	1.2%	1.1%	1.9%	2.5%	1.9%	-	1.6%
5件	(人)	1	7	23	34	16	5	1	87
	(%)	2.0%	1.3%	2.1%	4.0%	2.6%	2.4%	3.3%	2.6%
6件	(人)	0	1	6	10	5	1	0	23
	(%)	-	0.2%	0.5%	1.2%	0.8%	0.5%	-	0.7%
7件	(人)	0	0	1	7	2	1	0	11
	(%)	-	-	0.1%	0.8%	0.3%	0.5%	-	0.3%
8件	(人)	0	0	1	3	4	1	1	10
	(%)	-	-	0.1%	0.3%	0.7%	0.5%	3.3%	0.3%
9件以上	(人)	1	2	11	16	12	6	0	48
	(%)	2.0%	0.4%	1.0%	1.9%	2.0%	2.8%	-	1.4%
合計	(人)	49	520	1,110	860	608	212	30	3,389
	(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

グループSVは構成人数に関わらず1件とカウントした。

表 41 現在の就業形態:年齢階級別

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	合計
常勤のみ	(人)	371	1,421	1,440	781	254	29	3	4,299
	(%)	49.0%	47.4%	39.9%	33.0%	17.8%	6.2%	5.7%	36.8%
常勤+ 非常勤	(人)	50	255	492	386	216	24	4	1,427
	(%)	6.6%	8.5%	13.6%	16.3%	15.1%	5.1%	7.5%	12.2%
非常勤のみ	(人)	306	1,129	1,504	1,137	868	330	27	5,301
	(%)	40.4%	37.6%	41.7%	48.1%	60.8%	70.5%	50.9%	45.4%
現在は勤 務してい ない	(人)	30	196	173	60	89	85	19	652
	(%)	4.0%	6.5%	4.8%	2.5%	6.2%	18.2%	35.8%	5.6%
合計	(人)	757	3,001	3,609	2,364	1,427	468	53	11,679
	(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

常勤:休職中を含む / 現在は勤務していない:退職を含む。

表 42 年収:年齢階級別

	20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	合計
100 万円未満 (人)	13	140	145	81	100	79	8	566
(%)	1.8%	5.0%	4.2%	3.5%	7.5%	20.6%	23.5%	5.1%
100 万円以上 (人)	66	208	293	167	186	104	13	1,037
200 万円未満 (%)	9.1%	7.4%	8.5%	7.2%	13.9%	27.2%	38.2%	9.4%
200 万円以上 (人)	260	491	398	255	231	79	1	1,715
300 万円未満 (%)	35.8%	17.5%	11.6%	11.1%	17.3%	20.6%	2.9%	15.6%
300 万円以上 (人)	246	829	595	358	229	46	6	2,309
400 万円未満 (%)	33.8%	29.6%	17.3%	15.5%	17.1%	12.0%	17.6%	20.9%
400 万円以上 (人)	116	574	610	348	163	31	3	1,845
500 万円未満 (%)	16.0%	20.5%	17.8%	15.1%	12.2%	8.1%	8.8%	16.7%
500 万円以上 (人)	16	344	503	291	112	23	0	1,289
600 万円未満 (%)	2.2%	12.3%	14.6%	12.6%	8.4%	6.0%	0.0%	11.7%
600 万円以上 (人)	5	124	359	217	74	9	1	789
700 万円未満 (%)	0.7%	4.4%	10.4%	9.4%	5.5%	2.3%	2.9%	7.2%
700 万円以上 (人)	2	49	241	164	48	1	0	505
800 万円未満 (%)	0.3%	1.7%	7.0%	7.1%	3.6%	0.3%	0.0%	4.6%
800 万円以上 (人)	0	30	122	142	45	1	0	340
900 万円未満 (%)	0.0%	1.1%	3.6%	6.2%	3.4%	0.3%	0.0%	3.1%
900 万円以上 (人)	1	11	72	97	38	4	0	223
1,000 万円未満 (%)	0.1%	0.4%	2.1%	4.2%	2.8%	1.0%	0.0%	2.0%
1,000 万円以上 (人)	2	5	60	112	58	2	1	240
1,200 万円未満 (%)	0.3%	0.2%	1.7%	4.9%	4.3%	0.5%	2.9%	2.2%
1,200 万円以上 (人)	0	0	28	46	30	1	0	105
1,500 万円未満 (%)	0.0%	0.0%	0.8%	2.0%	2.2%	0.3%	0.0%	1.0%
1,500 万円以上 (人)	0	0	10	26	24	3	1	64
(%)	0.0%	0.0%	0.3%	1.1%	1.8%	0.8%	2.9%	0.6%
合計 (人)	727	2,805	3,436	2,304	1,338	383	34	11,027
(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

年収:2023 年度見込み / 私設心理相談の場合の必要経費は除く。

表 43 勤務領域数(1人あたり):年齢階級別

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上	合計
1領域	(人)	508	1897	2039	1144	600	195	17	6400
	(%)	69.9%	67.6%	59.3%	49.7%	44.8%	50.9%	50.0%	58.0%
2領域	(人)	170	656	903	700	441	125	7	3002
	(%)	23.4%	23.4%	26.3%	30.4%	33.0%	32.6%	20.6%	27.2%
3領域	(人)	35	182	366	324	207	43	5	1162
	(%)	4.8%	6.5%	10.7%	14.1%	15.5%	11.2%	14.7%	10.5%
4領域	(人)	9	60	102	105	64	18	4	362
	(%)	1.2%	2.1%	3.0%	4.6%	4.8%	4.7%	11.8%	3.3%
5領域	(人)	5	10	22	24	18	1	0	80
	(%)	0.7%	0.4%	0.6%	1.0%	1.3%	0.3%	0.0%	0.7%
6領域	(人)	0	0	4	7	6	0	1	18
	(%)	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	0.4%	0.0%	2.9%	0.2%
7領域	(人)	0	0	0	0	1	0	0	1
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%
8領域	(人)	0	0	0	0	1	1	0	2
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.3%	0.0%	0.0%
合計	(人)	727	2805	3436	2304	1338	383	34	11027
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

複数の勤務機関に所属していても、同一領域の機関であれば1領域。

表 44 勤務機関数(1人あたり):年齢階級別

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代 以上	合計
1機関	(人)	473	1770	1882	1063	527	178	15	5908
	(%)	65.1%	63.1%	54.8%	46.1%	39.4%	46.5%	44.1%	53.6%
2機関	(人)	180	666	867	631	413	118	7	2882
	(%)	24.8%	23.7%	25.2%	27.4%	30.9%	30.8%	20.6%	26.1%
3機関	(人)	53	250	447	391	245	54	6	1446
	(%)	7.3%	8.9%	13.0%	17.0%	18.3%	14.1%	17.6%	13.1%
4機関	(人)	11	78	158	137	98	23	4	509
	(%)	1.5%	2.8%	4.6%	5.9%	7.3%	6.0%	11.8%	4.6%
5機関	(人)	5	31	46	47	32	3	1	165
	(%)	0.7%	1.1%	1.3%	2.0%	2.4%	0.8%	2.9%	1.5%
6機関	(人)	3	7	25	24	12	4	1	76
	(%)	0.4%	0.2%	0.7%	1.0%	0.9%	1.0%	2.9%	0.7%
7機関	(人)	2	2	6	7	4	2	0	23
	(%)	0.3%	0.1%	0.2%	0.3%	0.3%	0.5%	0.0%	0.2%
8機関	(人)	0	1	5	1	6	1	0	14
	(%)	0.0%	0.0%	0.1%	0.0%	0.4%	0.3%	0.0%	0.1%
9機関	(人)	0	0	0	2	1	0	0	3
	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.1%	0.1%	0.0%	0.0%	0.0%

10 機関	(人)	0	0	0	1	0	0	0	1
以上	(%)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
合計	(人)	727	2805	3436	2304	1338	383	34	11027
	(%)	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

表 45 主たる勤務領域:年齢階級別

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	合計
保健・医療	(人)	362	1,304	1,588	996	482	110	9	4,851
領域	(%)	49.8%	46.5%	46.2%	43.2%	36.0%	28.7%	26.5%	44.0%
福祉領域	(人)	271	823	800	463	283	78	3	2,721
	(%)	37.3%	29.3%	23.3%	20.1%	21.2%	20.4%	8.8%	24.7%
教育領域	(人)	206	839	1233	941	666	187	11	4,083
	(%)	28.3%	29.9%	35.9%	40.8%	49.8%	48.8%	32.4%	37.0%
大学・研究所	(人)	69	456	858	738	434	78	12	2,645
領域	(%)	9.5%	16.3%	25.0%	32.0%	32.4%	20.4%	35.3%	24.0%
司法・法務・	(人)	12	75	134	109	59	17	2	408
警察領域	(%)	1.7%	2.7%	3.9%	4.7%	4.4%	4.4%	5.9%	3.7%
産業・組織・	(人)	29	190	340	330	197	35	9	1,130
労働領域	(%)	4.0%	6.8%	9.9%	14.3%	14.7%	9.1%	26.5%	10.2%
私設心理相	(人)	21	211	361	359	271	105	12	1,340
談領域	(%)	2.9%	7.5%	10.5%	15.6%	20.3%	27.4%	35.3%	12.2%
その他の	(人)	44	147	171	162	108	49	10	691
領域	(%)	6.1%	5.2%	5.0%	7.0%	8.1%	12.8%	29.4%	6.3%
合計	(人)	727	2,805	3,436	2,304	1,338	383	34	11,027
	(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

その他の領域:大学院在学中,心理専門家としてのボランティア活動,心理専門職以外の職業,その他。

表 46 主たる勤務機関:年齢階級別

		20 歳代	30 歳代	40 歳代	50 歳代	60 歳代	70 歳代	80 歳代	合計	
保健・医療領域	病院・	(人)	334	1,167	1,338	808	371	73	8	4,099
	診療所	(%)	45.9%	41.6%	38.9%	35.1%	27.7%	19.1%	23.5%	37.2%
	保健セ	(人)	22	128	225	176	101	22	0	674
	ンター	(%)	3.0%	4.6%	6.5%	7.6%	7.5%	5.7%	-	6.1%
	等	(人)	5	17	17	9	4	1	0	53
	リハビリ	(%)	0.7%	0.6%	0.5%	0.4%	0.3%	0.3%	-	0.5%
	センター	(人)	2	3	9	1	4	1	0	20
	老人保	(%)	0.3%	0.1%	0.3%	0.0%	0.3%	0.3%	-	0.2%
	健施設	(人)	0	6	16	21	14	5	1	63
	自治体	(%)	-	0.2%	0.5%	0.9%	1.0%	1.3%	2.9%	0.6%
から派	(人)	14	48	103	65	37	17	0	284	
遣	(%)	1.9%	1.7%	3.0%	2.8%	2.8%	4.4%	-	2.6%	
その他	(人)	14	48	103	65	37	17	0	284	
	(%)	1.9%	1.7%	3.0%	2.8%	2.8%	4.4%	-	2.6%	

福祉領域	児童福祉	(人)	195	567	522	263	137	35	2	1,721
		(%)	26.8%	20.2%	15.2%	11.4%	10.2%	9.1%	5.9%	15.6%
	老人福祉	(人)	1	8	11	7	8	1	0	36
		(%)	0.1%	0.3%	0.3%	0.3%	0.6%	0.3%	-	0.3%
	障害者福祉	(人)	42	143	153	79	51	9	2	479
		(%)	5.8%	5.1%	4.5%	3.4%	3.8%	2.3%	5.9%	4.3%
教育領域	女性福祉	(人)	1	11	20	23	34	7	0	96
		(%)	0.1%	0.4%	0.6%	1.0%	2.5%	1.8%	-	0.9%
	その他	(人)	36	122	138	117	73	32	0	518
		(%)	5.0%	4.3%	4.0%	5.1%	5.5%	8.4%	-	4.7%
	教育相談等	(人)	104	308	372	238	163	63	3	1,251
		(%)	14.3%	11.0%	10.8%	10.3%	12.2%	16.4%	8.8%	11.3%
大学・研究所領域	幼小中高予	(人)	42	231	404	341	253	58	4	1,333
		(%)	5.8%	8.2%	11.8%	14.8%	18.9%	15.1%	11.8%	12.1%
	自治体から派遣	(人)	80	371	571	442	313	80	4	1,861
		(%)	11.0%	13.2%	16.6%	19.2%	23.4%	20.9%	11.8%	16.9%
大学・研究所領域	その他	(人)	21	102	147	111	85	30	1	497
		(%)	2.9%	3.6%	4.3%	4.8%	6.4%	7.8%	2.9%	4.5%
	主に教育・研究	(人)	25	184	380	334	238	47	7	1,215
		(%)	3.4%	6.6%	11.1%	14.5%	17.8%	12.3%	20.6%	11.0%
	主に相談業務	(人)	36	216	407	308	137	29	1	1,134
	(%)	5.0%	7.7%	11.8%	13.4%	10.2%	7.6%	2.9%	10.3%	
大学・研究所領域	研究所	(人)	3	28	17	12	5	0	2	67
		(%)	0.4%	1.0%	0.5%	0.5%	0.4%	-	5.9%	0.6%
	その他	(人)	15	76	145	140	93	10	3	482
		(%)	2.1%	2.7%	4.2%	6.1%	7.0%	2.6%	8.8%	4.4%

保健・医療領域 保健センター等:精神保健福祉センター・保健所・保健センター
福祉領域 児童福祉:児童福祉施設・機関(含. 児童相談所)
リハビリセンター:リハビリテーションセンター
老人福祉:老人福祉施設・機関
自治体から派遣:自治体から派遣(HIV カウンセラー等)
障害者福祉:障害者福祉施設・機関
女性福祉:女性福祉施設・機関

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	合計	
司法・法務警察領域	司法関係	(人)	1	8	14	32	20	4	79	
		(%)	0.1%	0.3%	0.4%	1.4%	1.5%	1.0%	0.7%	
	法務省関係	(人)	5	42	61	44	25	5	182	
		(%)	0.7%	1.5%	1.8%	1.9%	1.9%	1.3%	1.7%	
	警察関係	(人)	4	17	40	15	6	3	85	
	(%)	0.6%	0.6%	1.2%	0.7%	0.4%	0.8%	0.8%		
産業・組織	その他	(人)	3	8	24	19	8	5	69	
		(%)	0.4%	0.3%	0.7%	0.8%	0.6%	1.3%	0.6%	
産業・組織	組織内	(人)	7	65	189	168	107	19	4	559
		(%)	1.0%	2.3%	5.5%	7.3%	8.0%	5.0%	11.8%	5.1%
	独立のEAP等	(人)	9	65	81	72	42	4	1	274
	(%)	1.2%	2.3%	2.4%	3.1%	3.1%	1.0%	2.9%	2.5%	

労働領域	その他	(人)	14	72	96	122	73	12	6	395
		(%)	1.9%	2.6%	2.8%	5.3%	5.5%	3.1%	17.6%	3.6%
私設心理相談領域	開設者	(人)	1	59	170	197	185	77	10	699
		(%)	0.1%	2.1%	4.9%	8.6%	13.8%	20.1%	29.4%	6.3%
	勤務	(人)	15	123	153	131	61	15	0	498
		(%)	2.1%	4.4%	4.5%	5.7%	4.6%	3.9%	-	4.5%
	その他	(人)	5	35	50	40	35	13	2	180
		(%)	0.7%	1.2%	1.5%	1.7%	2.6%	3.4%	5.9%	1.6%
その他の領域	大学院	(人)	16	28	28	13	5	0	0	90
		(%)	2.2%	1.0%	0.8%	0.6%	0.4%	-	-	0.8%
	ボランティア	(人)	14	31	47	66	60	31	8	257
		(%)	1.9%	1.1%	1.4%	2.9%	4.5%	8.1%	23.5%	2.3%
	心理専門職外	(人)	12	48	56	56	28	10	2	212
		(%)	1.7%	1.7%	1.6%	2.4%	2.1%	2.6%	5.9%	1.9%
	その他	(人)	9	46	47	40	21	11	1	175
		(%)	1.2%	1.6%	1.4%	1.7%	1.6%	2.9%	2.9%	1.6%
合計	(人)	1,093	4,383	6,051	4,510	2,797	729	74	19,673	
	(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	

教育領域	教育相談等:公立教育相談機関・教育委員会等 幼小中高予:幼稚園・小学校・中学校・高校・予備校 自治体から派遣:自治体から各校派遣(スクールカウンセラー)	司法・法務・警察領域	司法関係:司法(裁判所)関係機関 法務省関係:法務省(矯正保護)関係機関 警察関係:警察関係機関(含. 科学捜査研究所)
大学・研究所領域	主に教育・研究:専門学校・短大・大学等(主に教育・研究に従事) 主に相談業務:専門学校・短大・大学等(主に相談業務に従事) 研究所:研究所・研究機関	産業・組織・労働領域	組織内:組織内の健康管理・相談室 独立のEAP等:独立の健康管理・相談所(EAP等)
		私設心理相談領域	開設者:民間心理相談機関(開設者・管理責任者) 勤務:民間心理相談機関(勤務)
		その他の領域	ボランティア活動:心理専門家としてのボランティア活動 心理専門職外:心理専門職以外の職業

表 47 公認心理師・取得(登録):年齢階級別

		20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	合計
取得(登録)した	(人)	687	2,868	3,426	2,211	1,176	264	14	10,646
	(%)	90.8%	95.6%	94.9%	93.5%	82.4%	56.4%	26.4%	91.2%
取得(登録)予定	(人)	6	60	60	29	9	9	1	174
	(%)	0.8%	2.0%	1.7%	1.2%	0.6%	1.9%	1.9%	1.5%
取得(登録)する意思なし	(人)	1	40	68	72	199	176	31	587
	(%)	0.1%	1.3%	1.9%	3.0%	13.9%	37.6%	58.5%	5.0%
受験資格なし	(人)	63	33	55	52	43	19	7	272
	(%)	8.3%	1.1%	1.5%	2.2%	3.0%	4.1%	13.2%	2.3%
合計	(人)	757	3,001	3,609	2,364	1,427	468	53	11,679
	(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

資料1-3 クロス集計表：領域別

領域別の集計については、無回答を除いた有効回答のみについて示すため、合計人数は各表によって異なる。
また、領域別の集計は、主たる勤務領域のデータを用いて示すものとする。

表 48 主たる勤務機関での採用条件:領域別

	保健 医療	福祉	教育	大学・ 研究所	司法・法 務・警察	産業・組 織・労働	私設心 理相談	その他	合計
臨床心理士 資格+実績	(人) 1,792 (%) 36.9%	752 27.6%	1,508 36.9%	1,579 59.7%	107 26.2%	570 50.4%	801 59.8%	304 44.0%	3,518 33.5%
臨床心理士 資格のみ	(人) 2,288 (%) 47.2%	931 34.2%	1,903 46.6%	634 24.0%	64 15.7%	369 32.7%	352 26.3%	204 29.5%	4,191 39.9%
臨床心理士 資格不要	(人) 771 (%) 15.9%	1,038 38.1%	672 16.5%	432 16.3%	237 58.1%	191 16.9%	187 14.0%	183 26.5%	2,785 26.5%
合計	(人) 4,851 (%) 100%	2,721 100%	4,083 100%	2,645 100%	408 100%	1,130 100%	1,340 100%	691 100%	17,869 100%

臨床心理士資格+実績:臨床心理士であること(含. 取得見込み)に加えて、一定の実績・業績のあることが条件であった。

臨床心理士資格のみ:臨床心理士であること(含. 取得見込み)が条件であった。

臨床心理士資格不要:臨床心理士であることは条件ではなかった。

表 49 主たる勤務機関の月収:領域別

	保健 医療	福祉	教育	大学・ 研究所	司法・法 務・警察	産業・組 織・労働	私設心 理相談	その他	合計
5 万円未満	(人) 216 (%) 4.5%	105 3.9%	186 4.6%	104 3.9%	13 3.2%	51 4.5%	123 9.2%	60 8.7%	478 4.3%
5 万円以上 10 万円未満	(人) 503 (%) 10.4%	258 9.5%	407 10.0%	214 8.1%	30 7.4%	119 10.5%	179 13.4%	113 16.4%	924 8.4%
10 万円以上 20 万円未満	(人) 1,374 (%) 28.3%	636 23.4%	1,341 32.8%	529 20.0%	60 14.7%	254 22.5%	355 26.5%	186 26.9%	2,604 23.6%
20 万円以上 30 万円未満	(人) 1,690 (%) 34.8%	1,029 37.8%	1,204 29.5%	565 21.4%	80 19.6%	312 27.6%	307 22.9%	157 22.7%	3,682 33.4%
30 万円以上 40 万円未満	(人) 664 (%) 13.7%	467 17.2%	567 13.9%	516 19.5%	99 24.3%	210 18.6%	155 11.6%	92 13.3%	1,896 17.2%
40 万円以上 50 万円未満	(人) 222 (%) 4.6%	147 5.4%	218 5.3%	360 13.6%	75 18.4%	97 8.6%	115 8.6%	37 5.4%	795 7.2%
50 万円以上 60 万円未満	(人) 77 (%) 1.6%	43 1.6%	89 2.2%	205 7.8%	21 5.1%	40 3.5%	55 4.1%	24 3.5%	345 3.1%
60 万円以上	(人) 105 (%) 2.2%	36 1.3%	71 1.7%	152 5.7%	30 7.4%	47 4.2%	51 3.8%	22 3.2%	303 2.7%
合計	(人) 4,851 (%) 100%	2,721 100%	4,083 100%	2,645 100%	408 100%	1,130 100%	1,340 100%	691 100%	11,027 100%

月によって変動がある場合は、平均月収を示す。

表 50 主たる勤務機関の時間給:領域別

		保健 医療	福祉	教育	大学・ 研究所	司法・法 務・警察	産業組 織・労働	私設心 理相談	その他	合計
1 千円未満	(人)	18	14	25	10	4	7	18	11	52
	(%)	0.6%	0.9%	0.7%	0.5%	2.3%	0.9%	1.5%	1.9%	0.8%
1 千円以上	(人)	996	462	589	260	18	119	151	126	1,517
2 千円未満	(%)	31.8%	31.1%	15.8%	12.2%	10.2%	14.8%	12.8%	22.2%	22.5%
2 千円以上	(人)	459	225	432	271	21	129	129	75	909
3 千円未満	(%)	14.7%	15.1%	11.6%	12.7%	11.9%	16.0%	11.0%	13.2%	13.5%
3 千円以上	(人)	214	124	219	198	18	62	85	43	473
4 千円未満	(%)	6.8%	8.3%	5.9%	9.3%	10.2%	7.7%	7.2%	7.6%	7.0%
4 千円以上	(人)	245	119	499	231	27	100	126	56	672
5 千円未満	(%)	7.8%	8.0%	13.4%	10.9%	15.3%	12.4%	10.7%	9.9%	10.0%
5 千円以上	(人)	417	188	1217	338	24	141	200	83	1,324
6 千円未満	(%)	13.3%	12.6%	32.7%	15.9%	13.6%	17.5%	17.0%	14.6%	19.7%
6 千円以上	(人)	24	14	40	28	2	20	27	11	79
7 千円未満	(%)	0.8%	0.9%	1.1%	1.3%	1.1%	2.5%	2.3%	1.9%	1.2%
7 千円以上	(人)	16	6	13	21	0	11	15	2	40
8 千円未満	(%)	0.5%	0.4%	0.3%	1.0%	-	1.4%	1.3%	0.4%	0.6%
8 千円以上	(人)	13	6	19	16	3	12	17	6	39
9 千円未満	(%)	0.4%	0.4%	0.5%	0.8%	1.7%	1.5%	1.4%	1.1%	0.6%
9 千円以上	(人)	10	4	12	16	0	10	9	6	33
1 万円未満	(%)	0.3%	0.3%	0.3%	0.8%	-	1.2%	0.8%	1.1%	0.5%
1 万円以上	(人)	30	10	13	26	2	25	18	8	61
	(%)	1.0%	0.7%	0.3%	1.2%	1.1%	3.1%	1.5%	1.4%	0.9%
時間給 でない	(人)	686	315	648	714	57	170	382	140	1,529
	(%)	21.9%	21.2%	17.4%	33.5%	32.4%	21.1%	32.5%	24.7%	22.7%
合計	(人)	3,128	1,487	3,726	2,129	176	806	1,177	567	6,728
	(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

時間給でない:給与形態が時間給でない。(月極、歩合制等)

表 51 公認心理師・取得(登録)領域別

		保健 医療	福祉	教育	大学・ 研究所	司法・法 務・警察	産業組 織・労働	私設心 理相談	その他	合計
取得(登録) した	(人)	4,616	2,461	3,742	2,487	379	1,062	1,186	598	10,192
	(%)	95.2%	90.4%	91.6%	94.0%	92.9%	94.0%	88.5%	86.5%	92.4%
取得(登録) 予定	(人)	47	52	72	29	4	6	19	8	155
	(%)	1.0%	1.9%	1.8%	1.1%	1.0%	0.5%	1.4%	1.2%	1.4%
取得(登録) する意思なし	(人)	120	124	202	97	17	45	114	54	464
	(%)	2.5%	4.6%	4.9%	3.7%	4.2%	4.0%	8.5%	7.8%	4.2%
受験資格なし	(人)	68	84	67	32	8	17	21	31	216
	(%)	1.4%	3.1%	1.6%	1.2%	2.0%	1.5%	1.6%	4.5%	2.0%
合計	(人)	4,851	2,721	4,083	2,645	408	1,130	1,340	691	11,027
	(%)	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%

第9回：臨床心理士の動向調査

Windowsのパソコンをご利用の場合、【ctrl】キーと【+】キーで文字の表示を拡大できます。
Macintoshのパソコンの場合は、【コマンド】キーと【+】キーです。

注意事項

回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。
回答は、各ページ60分以内に送信をしてください。
JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ

【Windows】
Chrome 最新版
Firefox 最新版
Microsoft Edge 最新版
【MacOS】
Chrome 最新版
Firefox 最新版
Safari 最新版
【Android】
標準ブラウザ（Chrome）最新版
【iOS】
標準ブラウザ（Safari）最新版
Chrome 最新版

次へ

----- <改ページ> -----

S1. 日本臨床心理士会では、所属する臨床心理士に対して、
ほぼ3年に1度のペースで動向調査を行ってきました。
今年はその9回目にあたります。
ご多忙とは存じますが、ご協力よろしくお願い申し上げます。
アンケートの実施期間は、9月1日から10月31日までです。

----- <改ページ> -----

※本アンケートを回答する方は、以下に注意してご回答ください。

- ・ はじめて回答する方、または、アンケートを再開したいがIDがわからない方・・・「**はじめてから回答する**」を選択
- ・ 再度、お答えする方で、回答IDがわかる方・・・「**続きから回答する**」を選択

[必須]

S2. アンケートを回答しますか。
(お答えは1つ)

- はじめてから回答する
- 続きから回答する

----- <改ページ> -----

【回答者条件】
S2で『1.はじめてから回答する』 いずれかを選択した方のみ

S3. 下記【ID】をコピーなどして控えていただくと、アンケート画面を途中で閉じても、IDをご入力していた
だければ、回答途中の設問から再度回答できます。

- ※IDに誤りがある場合、最初から回答となりますためご注意ください。
- ※IDの再発行などは行っておりません。
- ※紛失した場合、最初から回答となりますためご注意ください。

【ID】

----- <改ページ> -----

【回答者条件】
S2で『2.続きから回答する』 いずれかを選択した方のみ

S4. 初めて回答するとき、前回控えた【ID】をご記入ください。

- ※IDに誤りがある場合、最初から回答となりますためご注意ください。

【ID】

-----<改ページ>-----

55. 下記ボタンを押して、アンケートに進んでください。

次へ

-----<改ページ>-----

-----<改ページ>-----

Q1_1 あなたの基本情報についてお伺いします。
あなたの年齢を教えてください。※2023年9月1日現在の年齢をお答え下さい。

歳

-----<改ページ>-----

Q1_2 あなたの性別を教えてください。

- 男性
 女性
 回答しない

-----<改ページ>-----

Q1_3 あなたがお住まいの現住所(地区)を教えてください。

注:
複数お住まいがある方は主にお住まいの地区をお選びください。

- 北海道地区
 東北地区 (青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県)
 関東地区 (茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県)
 北陸中部地区 (新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県)
 近畿地区 (三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県)
 中国地区 (鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県)
 四国地区 (徳島県、香川県、愛媛県、高知県)
 九州地区 (福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県)
 沖縄地区
 海外

-----<改ページ>-----

Q2_1 ここからは、あなたの教育歴、臨床歴、研修、資格等についてお伺いします。
あなたの最終学歴を教えてください。

- 大学卒業（4年制）
- 修士課程修了（6年制大学卒業、博士課程中退）
- 博士課程修了（含、博士課程満期退学）
- その他

----- < 改ページ > -----

Q2_2 あなたの取得した最終学位を教えてください。

- 学士
- 修士
- 博士
- 専門職学位
- 学位は取得していない

----- < 改ページ > -----

Q2_3 あなたの臨床心理業務の実務経験年数を教えてください。 ※大学および大学院修士課程在学期間は除いてお答え下さい。

注：
実務経験とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務の経験を指します。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、乗談を中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
・臨床心理アセスメントには、各種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

_____ 年

6ヶ月未満は切り捨て、6ヶ月以上は切り上げて整数で記入

----- < 改ページ > -----

Q2_4 あなたの臨床心理士の資格取得年を教えてください。

注：
受験した年ではなく、取得した年をご記入ください。

西暦 _____ 年

----- < 改ページ > -----

Q2_5 あなたの臨床心理業務の研修やスーパービジョンについてお伺いします。

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、乗談を中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
・臨床心理アセスメントには、各種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

臨床心理業務に関して、現在あなたが受けている研修を教えてください。

1/6

職場内での研修会・研究会等

- なし
- あり

----- < 改ページ > -----

Q2_6 臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの頻度を教えてください。

注：
スーパービジョンの形態（個人・グループの別）、手段（面接・電話・メール等の別）や費用（有料・無料等の別）は問いません。

- 定期的に、週1回程度
- 定期的に、2週に1回程度
- 定期的に、月に1回程度
- 定期的に、年に数回程度
- 定期的ではないが現在受けている
- 以前は定期的に受けていたが、現在は受けていない
- スーパービジョンを受けたことがない

----- < 改ページ > -----

-----<改ページ>-----

あなたの臨床心理業務の研修やスーパービジョンについてお伺いします。

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
*臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
*臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
*臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、
一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会・講師)等を含みます。
*臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。
臨床心理業務に関して、現在あなたが受けている研修を教えてください。

Q2_5

2/6

職場内でのグループスーパービジョン等

なし
 あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----

臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの頻度を教えてください。
スーパービジョンという「契約」のもとに定期的に受けているものについてお答えください。

注：
スーパービジョンの形態(個人・グループの別)、手段(面接・電話・メール等の別)や費用(有料・無料等の別)は問いません。

Q2_6

定期的に、週1回程度
 定期的に、2週に1回程度
 定期的に、月に1回程度
 定期的に、年に数回程度
 定期的ではないが現在受けている
 以前は定期的に受けていたが、現在は受けていない
 スーパービジョンを受けたことがない

-----<改ページ>-----

-----<改ページ>-----

あなたの臨床心理業務の研修やスーパービジョンについてお伺いします。

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
*臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
*臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
*臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、
一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会・講師)等を含みます。
*臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。
臨床心理業務に関して、現在あなたが受けている研修を教えてください。

Q2_5

3/6

職場内での個人スーパービジョン等

なし
 あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----

臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの頻度を教えてください。
スーパービジョンという「契約」のもとに定期的に受けているものについてお答えください。

注：
スーパービジョンの形態(個人・グループの別)、手段(面接・電話・メール等の別)や費用(有料・無料等の別)は問いません。

Q2_6

定期的に、週1回程度
 定期的に、2週に1回程度
 定期的に、月に1回程度
 定期的に、年に数回程度
 定期的ではないが現在受けている
 以前は定期的に受けていたが、現在は受けていない
 スーパービジョンを受けたことがない

-----<改ページ>-----

-----<改ページ>-----

あなたの臨床心理業務の研修やスーパービジョンについてお伺いします。

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
*臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
*臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
*臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
*臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

臨床心理業務に関して、現在あなたが受けている研修を教えてください。

4/6

職場外での研修会・研究会等

なし
 あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----

臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの頻度を教えてください。
スーパービジョンという「契約」のもとに定期的に受けているものについてお答えください。

注：
スーパービジョンの形態（個人・グループの別）、手段（面接・電話・メール等の別）や費用（有料・無料等の別）は問いません。

定期的に、週1回程度
 定期的に、2週に1回程度
 定期的に、月に1回程度
 定期的に、年に数回程度
 定期的ではないが現在受けている
 以前は定期的に受けていたが、現在は受けていない
 スーパービジョンを受けたことがない

-----<改ページ>-----

-----<改ページ>-----

あなたの臨床心理業務の研修やスーパービジョンについてお伺いします。

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
*臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
*臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
*臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
*臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

臨床心理業務に関して、現在あなたが受けている研修を教えてください。

5/6

職場外でのグループスーパービジョン等

なし
 あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----

臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの頻度を教えてください。
スーパービジョンという「契約」のもとに定期的に受けているものについてお答えください。

注：
スーパービジョンの形態（個人・グループの別）、手段（面接・電話・メール等の別）や費用（有料・無料等の別）は問いません。

定期的に、週1回程度
 定期的に、2週に1回程度
 定期的に、月に1回程度
 定期的に、年に数回程度
 定期的ではないが現在受けている
 以前は定期的に受けていたが、現在は受けていない
 スーパービジョンを受けたことがない

-----<改ページ>-----

-----<改ページ>-----

Q2_5	あなたの臨床心理業務の研修やスーパービジョンについてお伺いします。 注: 臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。 *臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く) また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。 *臨床心理アセスメントには、精神の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。 *臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、 一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。 *臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。 臨床心理業務に関して、現在あなたが受けている研修を教えてください。
-------------	--

6/6

職場外での個人スーパービジョン等
<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次を表示"/>

-----<改ページ>-----

Q2_6	臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの頻度を教えてください。 スーパービジョンという「契約」のもとに定期的に受けているものについてお答えください。 注: スーパービジョンの形態(個人・グループの別)、手段(面接・電話・メール等の別)や費用(有料・無料等の別)は問いません。
<input type="radio"/> 定期的に、週1回程度	
<input type="radio"/> 定期的に、2週に1回程度	
<input type="radio"/> 定期的に、月に1回程度	
<input type="radio"/> 定期的に、年に数回程度	
<input type="radio"/> 定期的ではないが現在受けている	
<input type="radio"/> 以前は定期的に受けていたが、現在は受けていない	
<input type="radio"/> スーパービジョンを受けたことがない	

-----<改ページ>-----

Q2_7	臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの費用を教えてください。 注: 有料が1つでもある場合は「有料」をお選びください。
<input type="radio"/> 有料	
<input type="radio"/> 無料	
<input type="radio"/> 現在はスーパービジョンを受けていない	

-----<改ページ>-----

Q2_8	臨床心理業務に関して、現在あなたが持っている、臨床心理士の育成・教育・指導を教えてください。
1/4	
大学院生(修士課程)の卒前教育・指導等	
<input type="radio"/> なし <input type="radio"/> あり	
<input type="button" value="戻る"/> <input type="button" value="次を表示"/>	

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q2_8で「1.大学院生(修士課程)の卒前教育・指導等」で「2.あり」いずれかを選択した
または
Q2_8で「2.臨床心理士等の個人指導・スーパービジョン等」で「2.あり」いずれかを選択した
または
Q2_8で「3.臨床心理士等を対象とした研修会・研究会の講師等」で「2.あり」いずれかを選択した
または
Q2_8で「4.その他」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q2_9	臨床心理業務に関して、現在あなたが持っているスーパービジョンの件数(1週間あたり)を教えてください。 注: ここでの「あなた」は、スーパーバイザーとしての立場を意味します。 スーパービジョンの形態(個人・グループの別)、手段(面接・電話・メール等の別)や費用(有料・無料等の別)は問いません。 隔週で1件の場合は、0.5件として計算して下さい。グループ・スーパービジョンは、構成人数にかかわらず1件として計算して下さい。
件/週	
小数点以下第1位まで	

-----<改ページ>-----

Q2_10_1	心理専門職以外に取得している資格を教えてください。(職務に関連する資格に限る)
1/7	

Q2_7 臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの費用を教えてください。

注：
有料が1つでもある場合は「有料」をお選びください。

有料

無料

現在はスーパービジョンを受けていない

-----<改ページ>-----

Q2_8 臨床心理業務に関して、現在あなたがやっている、臨床心理士の育成・教育・指導を教えてください。

2/4

臨床心理士等の個人指導・スーパービジョン等

なし

あり

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q2_8で「1.大学院生（修士課程）の卒前教育・指導等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「2.臨床心理士等の個人指導・スーパービジョン等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「3.臨床心理士等を対象とした研修会・研究会の講師等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「4.その他」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q2_9 臨床心理業務に関して、現在あなたがやっているスーパービジョンの件数（1週間あたり）を教えてください。

注：
ここでの「あなた」は、スーパーバイザーとしての立場を意味します。
スーパービジョンの形態（個人・グループの別）、手段（面接・電話・メール等の別）や費用（有料・無料等の別）は問いません。
隔週で1件の場合は、0.5件として計算して下さい。グループ・スーパービジョンは、構成人数にかかわらず1件として計算して下さい。

件/週

小数点以下第1位まで

-----<改ページ>-----

Q2_10_1 心理専門職以外に取得している資格を教えてください。（職務に関連する資格に限る）

1/7

Q2_7 臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの費用を教えてください。

注：
有料が1つでもある場合は「有料」をお選びください。

有料

無料

現在はスーパービジョンを受けていない

-----<改ページ>-----

Q2_8 臨床心理業務に関して、現在あなたがやっている、臨床心理士の育成・教育・指導を教えてください。

3/4

臨床心理士等を対象とした研修会・研究会の講師等

なし

あり

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q2_8で「1.大学院生（修士課程）の卒前教育・指導等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「2.臨床心理士等の個人指導・スーパービジョン等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「3.臨床心理士等を対象とした研修会・研究会の講師等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「4.その他」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q2_9 臨床心理業務に関して、現在あなたがやっているスーパービジョンの件数（1週間あたり）を教えてください。

注：
ここでの「あなた」は、スーパーバイザーとしての立場を意味します。
スーパービジョンの形態（個人・グループの別）、手段（面接・電話・メール等の別）や費用（有料・無料等の別）は問いません。
隔週で1件の場合は、0.5件として計算して下さい。グループ・スーパービジョンは、構成人数にかかわらず1件として計算して下さい。

件/週

小数点以下第1位まで

-----<改ページ>-----

Q2_10_1 心理専門職以外に取得している資格を教えてください。（職務に関連する資格に限る）

1/7

Q2_7 臨床心理業務に関して、現在あなたが受けているスーパービジョンの費用を教えてください。

注：
有料が1つでもある場合は「有料」をお選びください。

有料

無料

現在はスーパービジョンを受けていない

-----<改ページ>-----

Q2_8 臨床心理業務に関して、現在あなたが行っている、臨床心理士の育成・教育・指導を教えてください。

4/4

その他

なし

あり

-----<改ページ>-----

【回答書条件】
Q2_8で「1.大学院生（修士課程）の卒前教育・指導等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「2.臨床心理士等の個人指導・スーパービジョン等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「3.臨床心理士等を対象とした研修会・研究会の講師等」で『2.あり』いずれかを選択した
または
Q2_8で「4.その他」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q2_9 臨床心理業務に関して、現在あなたが行っているスーパービジョンの件数（1週間あたり）を教えてください。

注：
ここでの「あなた」は、スーパーバイザーとしての立場を意味します。
スーパービジョンの形態（個人・グループの別）、手段（面接・電話・メール等の別）や費用（有料・無料等の別）は問いません。
隔週で1件の場合は、0.5件として計算して下さい。グループ・スーパービジョンは、構成人数にかかわらず1件として計算して下さい。

件/週

小数点以下第1位まで

-----<改ページ>-----

Q2_10_1 心理専門職以外に取得している資格を教えてください。（職務に関連する資格に限る）

1/7

医師

なし

あり

-----<改ページ>-----

【回答書条件】
Q2_10_1で「7.その他」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q2_10_2 前問で資格名記入欄「その他」で「あり」とお答えの方は、具体的に資格の名称をご記入ください。（職務に関連する資格に限る）

資格名:

資格名:

資格名:

資格名:

資格名:

-----<改ページ>-----

Q2_11 あなたは公認心理師資格を取得（登録）しましたか。

取得（登録）した

取得（登録）する予定

取得（登録）する意思なし

受験資格なし

-----<改ページ>-----

Q3_1 ここからは、あなたの就業状態についてお伺いします。
現在の就業形態を教えてください。

注：
原則として週5日以上の勤務を常勤としますが、契約上、例えば週4日勤務で常勤扱い、週5日勤務で非常勤扱いとなっている場合は、契約上の身分を優先して下さい。

常勤のみ（含、休職中）

常勤（含、休職中）と非常勤

非常勤のみ

看護師

- なし
- あり

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q2.10.1で「7.その他」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q2.10.2 前問で資格名記入欄「その他」で「あり」とお答えの方は、具体的に資格の名称をご記入ください。（職務に関連する資格に限る）

資格名：
資格名：
資格名：
資格名：
資格名：

< 改ページ >

Q2.11 あなたは公認心理師資格を取得（登録）しましたか。

- 取得（登録）した
- 取得（登録）する予定
- 取得（登録）する意思なし
- 受験資格なし

< 改ページ >

Q3.1 ここからは、あなたの就業状態についてお伺いします。

現在の就業形態を教えてください。

注：原則として週5日以上勤務を常勤としますが、契約上、例えば週4日勤務で常勤扱い、週5日勤務で非常勤扱いとなっている場合は、契約上の身分を優先して下さい。

- 常勤のみ（含、休職中）
- 常勤（含、休職中）と非常勤
- 非常勤のみ

社会福祉士

- なし
- あり

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q2.10.1で「7.その他」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q2.10.2 前問で資格名記入欄「その他」で「あり」とお答えの方は、具体的に資格の名称をご記入ください。（職務に関連する資格に限る）

資格名：
資格名：
資格名：
資格名：
資格名：

< 改ページ >

Q2.11 あなたは公認心理師資格を取得（登録）しましたか。

- 取得（登録）した
- 取得（登録）する予定
- 取得（登録）する意思なし
- 受験資格なし

< 改ページ >

Q3.1 ここからは、あなたの就業状態についてお伺いします。

現在の就業形態を教えてください。

注：原則として週5日以上勤務を常勤としますが、契約上、例えば週4日勤務で常勤扱い、週5日勤務で非常勤扱いとなっている場合は、契約上の身分を優先して下さい。

- 常勤のみ（含、休職中）
- 常勤（含、休職中）と非常勤
- 非常勤のみ

精神保健福祉士

- なし
- あり

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q2_10_1で「7.その他」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q2_10_2 前問で資格名記入欄「その他」で「あり」とお答えの方は、具体的に資格の名称をご記入ください。（職務に関連する資格に限る）

資格名：
資格名：
資格名：
資格名：
資格名：

-----<改ページ>-----

Q2_11 あなたは公認心理師資格を取得（登録）しましたか。

- 取得（登録）した
- 取得（登録）する予定
- 取得（登録）する意思なし
- 受験資格なし

-----<改ページ>-----

Q3_1

ここからは、あなたの就業状態についてお伺いします。
現在の就業形態を教えてください。

注：
原則として週5日以上勤務を常勤としますが、契約上、例えば週4日勤務で常勤扱い、週5日勤務で非常勤扱いとなっている場合は、契約上の身分を優先して下さい。

- 常勤のみ（含、休職中）
- 常勤（含、休職中）と非常勤
- 非常勤のみ

言語聴覚士

- なし
- あり

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q2_10_1で「7.その他」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q2_10_2 前問で資格名記入欄「その他」で「あり」とお答えの方は、具体的に資格の名称をご記入ください。（職務に関連する資格に限る）

資格名：
資格名：
資格名：
資格名：
資格名：

-----<改ページ>-----

Q2_11 あなたは公認心理師資格を取得（登録）しましたか。

- 取得（登録）した
- 取得（登録）する予定
- 取得（登録）する意思なし
- 受験資格なし

-----<改ページ>-----

Q3_1

ここからは、あなたの就業状態についてお伺いします。
現在の就業形態を教えてください。

注：
原則として週5日以上勤務を常勤としますが、契約上、例えば週4日勤務で常勤扱い、週5日勤務で非常勤扱いとなっている場合は、契約上の身分を優先して下さい。

- 常勤のみ（含、休職中）
- 常勤（含、休職中）と非常勤
- 非常勤のみ

その他

なし
 あり

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q2_10_1で「7.その他」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q2_10_2 前問で資格名記入欄「その他」で「あり」とお答えの方は、具体的に資格の名称をご記入ください。（職務に関連する資格に限る）

資格名: _____

資格名: _____

資格名: _____

資格名: _____

資格名: _____

-----<改ページ>-----

Q2_11 あなたは公認心理師資格を取得（登録）しましたか。

取得（登録）した
 取得（登録）する予定
 取得（登録）する意思なし
 受験資格なし

-----<改ページ>-----

Q3_1 ここからは、あなたの就業状態についてお伺いします。
現在の就業形態を教えてください。

注：
原則として週5日以上勤務を常勤としますが、契約上、例えば週4日勤務で常勤扱い、週5日勤務で非常勤扱いとなっている場合は、契約上の身分を優先して下さい。

常勤のみ（含、休職中）
 常勤（含、休職中）と非常勤
 非常勤のみ

その他

なし
 あり

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q2_10_1で「7.その他」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q2_10_2 前問で資格名記入欄「その他」で「あり」とお答えの方は、具体的に資格の名称をご記入ください。（職務に関連する資格に限る）

資格名: _____

資格名: _____

資格名: _____

資格名: _____

資格名: _____

-----<改ページ>-----

Q2_11 あなたは公認心理師資格を取得（登録）しましたか。

取得（登録）した
 取得（登録）する予定
 取得（登録）する意思なし
 受験資格なし

-----<改ページ>-----

Q3_1 ここからは、あなたの就業状態についてお伺いします。
現在の就業形態を教えてください。

注：
原則として週5日以上勤務を常勤としますが、契約上、例えば週4日勤務で常勤扱い、週5日勤務で非常勤扱いとなっている場合は、契約上の身分を優先して下さい。

常勤のみ（含、休職中）
 常勤（含、休職中）と非常勤
 非常勤のみ

教育

- 公立教育相談機関・教育委員会等
- 幼稚園・小学校・中学校・高校・予備校
- 自治体から各校派遣（スクールカウンセラー）
- 教育関係 その他

大学研究所

- 専門学校・短大・大学等（主に教育・研究に従事）
- 専門学校・短大・大学等（主に相談業務に従事）
- 研究所・研究機関
- 大学・研究所関係 その他

司法・法務・警察

- 司法（裁判所）関係機関
- 法務省（矯正保護）関係機関
- 警察関係機関（科学捜査研究所を含む）
- 司法・法務・警察関係 その他

産業・組織・労働

- 組織内の健康管理・相談室
- 独立の健康管理・相談所（EAP等）
- 産業・労働関係 その他

私設心理相談

- 民間心理相談機関（開設者・管理責任者）
- 民間心理相談機関（勤務）
- 民間心理相談関係 その他

その他

- 大学院在学中
- 心理専門家としてのボランティア活動
- 心理専門職以外の職業
- その他

-----<改ページ>-----
 【回答者条件】
 Q3.1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。
 注：
 1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
 勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
 勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
 (例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
 異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

1 / 33

病院・診療所

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

-----<改ページ>-----
 【回答者条件】
 Q3.1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

2/33

精神保健福祉センター・保健所・保健センター

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

3/33

リハビリテーションセンター

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

4 / 33

老人保健施設

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

5 / 33

自治体から派遣 (HIV カウンセラー等)

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

6/33

保健・医療関係 その他

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3.1で「1.常勤のみ(含、休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

7/33

児童福祉施設・機関（児童相談所を含む）

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3.1で「1.常勤のみ(含、休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

8/33

老人福祉施設・機関

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

9/33

障害者福祉施設・機関

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

10 / 33

女性福祉施設・機関

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

11 / 33

福祉関係 その他

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に勤務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

12 / 33

公立教育相談機関・教育委員会等

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含、休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に勤務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

13 / 33

幼稚園・小学校・中学校・高校・予備校

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含、休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

14 / 33

自治体から各校派遣 (スクールカウンセラー)

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

15 / 33

教育関係 その他

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

16 / 33

専門学校・短大・大学等（主に教育・研究に従事）

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

17 / 33

専門学校・短大・大学等（主に相談業務に従事）

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

18 / 33

研究所・研究機関

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

19 / 33

大学・研究所関係 その他

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

20 / 33

司法（裁判所）関係機関

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含、休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

21 / 33

法務省（矯正保護）関係機関

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含、休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

22 / 33

警察関係機関 (科学捜査研究所を含む)

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

23 / 33

司法・法務・警察関係 その他

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

24 / 33

組織内の健康管理・相談室

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

25 / 33

独立の健康管理・相談所 (EAP 等)

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に勤務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

26 / 33

産業・労働関係 その他

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に勤務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

27 / 33

民間心理相談機関 (開設者・管理責任者)

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含.休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

28 / 33

民間心理相談機関 (勤務)

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.1で「1.常勤のみ(含、休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

29 / 33

民間心理相談関係 その他

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.1で「1.常勤のみ(含、休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

30 / 33

大学院在学中

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含、休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼務している)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

31 / 33

心理専門家としてのボランティア活動

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含、休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

32 / 33

心理専門職以外の職業

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含、休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_3_2

あなたが現在の勤務されている機関の1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注：
1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。
勤務日数は、半日(0.5日)か1日(1.0日)の単位とします。例えば3時間勤務でも0.5日、10時間勤務でも1.0日として下さい。
勤務日数は、同一分類で異なる機関2カ所に勤務している場合は、両機関を加算した値をお選びください。
(例：スクールカウンセラーとしてB中学校とC中学校に1日ずつ勤務している場合、勤務日数/週の「2.0日」をお選びください)
異なる2機関に兼務している場合(例：病院に常勤で勤務し、付属の老人保健施設の業務も兼ねている)は、勤務日数は業務時間・量で割り振ってご判断下さい。

33 / 33

その他

- 0.5日/週
- 1.0日/週
- 1.5日/週
- 2.0日/週
- 2.5日/週
- 3.0日/週
- 3.5日/週
- 4.0日/週
- 4.5日/週
- 5.0日/週
- 5.5日/週
- 6.0日/週
- 6.5日/週
- 7.0日/週

戻る

次を表示

-----<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ(含、休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_4 あなた自身が行っている、臨床心理関係の業務内容を教えてください。（所属する全勤務機関を通してお考えください）

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

1/4

臨床心理面接

なし

あり

戻る 次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3_4で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_5 あなた自身が行っている、臨床心理面接の形態を教えてください。

・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

1/4

個人に対して実施

なし

あり

戻る 次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3_4で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_4 あなた自身が行っている、臨床心理関係の業務内容を教えてください。（所属する全勤務機関を通してお考えください）

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

2/4

臨床心理アセスメント

なし

あり

戻る 次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3_4で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_5 あなた自身が行っている、臨床心理面接の形態を教えてください。

・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

2/4

親子、夫婦、家族等の小集団に対して実施

なし

あり

戻る 次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3_4で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3-4 あなた自身が行っている、臨床心理関係の業務内容を教えてください。（所属する全勤務機関を通してお考えください）

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

3/4

臨床心理地域援助

- なし
 あり

戻る 次を表示

< 改ページ >
【回答者条件】
Q3.4で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3-5 あなた自身が行っている、臨床心理面接の形態を教えてください。

・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

3/4

集団に対して実施

- なし
 あり

戻る 次を表示

< 改ページ >
【回答者条件】
Q3.4で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3-4 あなた自身が行っている、臨床心理関係の業務内容を教えてください。（所属する全勤務機関を通してお考えください）

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

4/4

臨床心理研究

- なし
 あり

戻る 次を表示

< 改ページ >
【回答者条件】
Q3.4で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3-5 あなた自身が行っている、臨床心理面接の形態を教えてください。

・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

4/4

その他

- なし
 あり

戻る 次を表示

< 改ページ >
【回答者条件】
Q3.4で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_6 あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

1/5

乳幼児

なし
 あり

戻る 次を表示

<改ページ>
【回答者条件】
Q3_4で「2.臨床心理アセスメント」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_7 あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。
・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

1/9

人格検査 (投映法：描画法)

なし
 あり

戻る 次を表示

<改ページ>
【回答者条件】
Q3_4で「3.臨床心理地域援助」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_8 あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
注：
ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

Q3_6 あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

2/5

児童 (小学生年代)

なし
 あり

戻る 次を表示

<改ページ>
【回答者条件】
Q3_4で「2.臨床心理アセスメント」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_7 あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。
・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

2/9

人格検査 (投映法：描画法を除く)

なし
 あり

戻る 次を表示

<改ページ>
【回答者条件】
Q3_4で「3.臨床心理地域援助」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_8 あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
注：
ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

Q3_6 あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、求職者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

3/5

青年 (中学生・高校生・大学生年代)

- なし
 あり

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.4で「2.臨床心理アセスメント」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_7 あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。
・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

3/9

人格検査 (質問紙法)

- なし
 あり

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.4で「3.臨床心理地域援助」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_8 あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
注:
ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

Q3_6 あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、求職者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

4/5

成人

- なし
 あり

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.4で「2.臨床心理アセスメント」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_7 あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。
・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

4/9

知能検査

- なし
 あり

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.4で「3.臨床心理地域援助」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_8 あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
注:
ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

Q3_6 あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。
 ・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
 また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

5/5

高齢者

- なし
 あり

戻る 次を表示

<改ページ>
 【回答者条件】 Q3.4で「2.臨床心理アセスメント」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_7 あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。
 ・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

5/9

発達検査

- なし
 あり

戻る 次を表示

<改ページ>
 【回答者条件】 Q3.4で「3.臨床心理地域援助」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_8 あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。
 ・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
 注：
 ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

Q3_6 あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。
 ・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
 また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

<改ページ>
 【回答者条件】 Q3.4で「2.臨床心理アセスメント」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_7 あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。
 ・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

6/9

器質障害・神経心理検査

- なし
 あり

戻る 次を表示

<改ページ>
 【回答者条件】 Q3.4で「3.臨床心理地域援助」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_8 あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。
 ・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
 注：
 ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

Q3_6 あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。

・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3.4で「2.臨床心理アセスメント」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_7 あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。

・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

7/9

査定面接

なし

あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3.4で「3.臨床心理地域援助」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_8 あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。

・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。

注:
ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

Q3_6 あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。

・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3.4で「2.臨床心理アセスメント」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_7 あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。

・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

8/9

行動観察

なし

あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3.4で「3.臨床心理地域援助」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_8 あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。

・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。

注:
ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

Q3_6

あなた自身が行っている、臨床心理面接の対象を教えてください。

・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパービジョンは除く)
また、求談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.4で「2.臨床心理アセスメント」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_7

あなた自身が行っている、臨床心理アセスメントの種類を教えてください。

・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。

9/9

その他

なし
 あり

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.4で「3.臨床心理地域援助」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_8

あなた自身が行っている、臨床心理地域援助の種類を教えてください。

・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。

注:
ここでいうコーディネーションとは、より効果的な援助を行うために学校、職場、地域社会等に働きかけて調整する活動、コンサルテーションとは、他の専門家に臨床心理学的側面からの助言を行う活動、リエゾンとは、複数領域の専門家集団の一員として全人的アプローチを行う活動を指します。

1/5

コーディネーション

なし
 あり

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.4で「4.臨床心理研究」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_9

あなた自身が行っている、臨床心理研究の種類を教えてください。(含、学会発表等)

・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

1/5

事例研究

なし
 あり

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.1で「1.常勤のみ(含、休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_10

業務において関係職種と連携していますか。

なし
 あり

<改ページ>

【回答者条件】
Q3.1で「1.常勤のみ(含、休職中)」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q4_1

ここからは、あなたの主たる勤務機関での業務内容についてお伺いします。
主たる勤務機関を教えてください。

注:
ここでいう主たる勤務機関とは、あなたが1週間で最も多い日数(時間)勤務している職場、または、自分が活動の中心と考えている職場を指します。

コンサルテーション

- なし
 あり

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_4で「4.臨床心理研究」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_9

あなた自身が行っている、臨床心理研究の種類を教えてください。(含.学会発表等)

・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

2/5

調査研究

- なし
 あり

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_10

業務において関係職種と連携していますか。

- なし
 あり

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_1

ここからは、あなたの主たる勤務機関での業務内容についてお伺いします。
主たる勤務機関を教えてください。

注:
ここでの主たる勤務機関とは、あなたが1週間で最も多い日数(時間)勤務している職場、または、自分が活動の中心と
考えている職場を指します。

リエゾン

- なし
 あり

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_4で「4.臨床心理研究」で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q3_9

あなた自身が行っている、臨床心理研究の種類を教えてください。(含.学会発表等)

・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

3/5

実験研究

- なし
 あり

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q3_10

業務において関係職種と連携していますか。

- なし
 あり

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_1

ここからは、あなたの主たる勤務機関での業務内容についてお伺いします。
主たる勤務機関を教えてください。

注:
ここでの主たる勤務機関とは、あなたが1週間で最も多い日数(時間)勤務している職場、または、自分が活動の中心と
考えている職場を指します。

心理的情報の提供（心理教育，講演会等）

- なし
 あり

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_4で「4.臨床心理研究」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_9

あなた自身が行っている、臨床心理研究の種類を教えてください。（含、学会発表等）

・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

4/5

文献研究

- なし
 あり

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ（含、休職中）」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_10

業務において関係職種と連携していますか。

- なし
 あり

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ（含、休職中）」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q4_1

ここからは、あなたの主たる勤務機関での業務内容についてお伺いします。
主たる勤務機関を教えてください。

注：
ここでの主たる勤務機関とは、あなたが1週間で最も多い日数（時間）勤務している職場、または、自分が活動の中心と
考えている職場を指します。

その他

- なし
 あり

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_4で「4.臨床心理研究」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q3_9

あなた自身が行っている、臨床心理研究の種類を教えてください。（含、学会発表等）

・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

5/5

その他

- なし
 あり

戻る

次を表示

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ（含、休職中）」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q3_10

業務において関係職種と連携していますか。

- なし
 あり

< 改ページ >

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ（含、休職中）」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q4_1

ここからは、あなたの主たる勤務機関での業務内容についてお伺いします。
主たる勤務機関を教えてください。

注：
ここでの主たる勤務機関とは、あなたが1週間で最も多い日数（時間）勤務している職場、または、自分が活動の中心と
考えている職場を指します。

保健・医療

- 病院・診療所
- 精神保健福祉センター・保健所・保健センター
- リハビリテーションセンター
- 老人保健施設
- 自治体から派遣（HIV カウンセラー等）
- 保健・医療関係 その他

福祉

- 児童福祉施設・機関（児童相談所を含む）
- 老人福祉施設・機関
- 障害者福祉施設・機関
- 女性福祉施設・機関
- 福祉関係 その他

教育

- 公立教育相談機関・教育委員会等
- 幼稚園・小学校・中学校・高校・予備校
- 自治体から各校派遣（スクールカウンセラー）
- 教育関係 その他

大学研究所

- 専門学校・短大・大学等（主に教育・研究に従事）
- 専門学校・短大・大学等（主に相談業務に従事）
- 研究所・研究機関
- 大学・研究所関係 その他

司法・法務・警察

- 司法（裁判所）関係機関
- 法務省（矯正保護）関係機関
- 警察関係機関（科学捜査研究所を含む）
- 司法・法務・警察関係 その他

産業・組織・労働

- 組織内の健康管理・相談室
- 独立の健康管理・相談所（EAP 等）
- 産業・労働関係 その他

私設心理相談

- 民間心理相談機関（開設者・管理責任者）
- 民間心理相談機関（勤務）
- 民間心理相談関係 その他

その他

- 大学院在学中
- 心理専門家としてのボランティア活動
- 心理専門職以外の職業
- その他

< 改ページ >

【回答者条件】 Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_2 主たる勤務機関【回答: Q4_1】での臨床心理業務の有無を教えてください。

注: ここでの臨床心理業務とは、4種の基本的専門業務(臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究)のいずれかを行っていることを指します。

なし

あり

< 改ページ >

【回答者条件】 Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_3 主たる勤務機関【回答: Q4_1】における1週間あたりの勤務日数を教えてください。

注: 1週間あたりに換算した勤務日数で、半日の日がある場合は、0.5日として計算して下さい。

日/週

小数点以下第1位まで

< 改ページ >

【回答者条件】 Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_4 主たる勤務機関【回答: Q4_1】での採用条件を教えてください。

臨床心理士であること(含.取得見込み)に加えて、一定の実績・業績のあることが条件であった

臨床心理士であること(含.取得見込み)が条件であった

臨床心理士であることは条件ではなかった

< 改ページ >

【回答者条件】 Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_5 主たる勤務機関【回答: Q4_1】において、学会参加についての職場の扱いを教えてください。

業務のうちとして、出張費等が出る

- 出張費は出ないが、欠勤にはならない（含、有給休暇扱い、振替出勤）
- 欠勤となる（収入が減る）
- 参加が許されない（感謝の対象となる）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ（含、休職中）」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q4_6 主たる勤務機関【[回答: Q4_1]】からの月収（税込み）を教えてください。
注：
月によって変動がある場合は、平均月収をお答え下さい。

- 5万円未満
- 5万円以上 10万円未満
- 10万円以上 20万円未満
- 20万円以上 30万円未満
- 30万円以上 40万円未満
- 40万円以上 50万円未満
- 50万円以上 60万円未満
- 60万円以上

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「2.常勤（含、休職中）」と「非常勤のみ」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q4_7 主たる勤務機関【[回答: Q4_1]】での時間給を教えてください。

- 1,000円未満
- 1,000円以上 2,000円未満
- 2,000円以上 3,000円未満
- 3,000円以上 4,000円未満
- 4,000円以上 5,000円未満
- 5,000円以上 6,000円未満
- 6,000円以上 7,000円未満
- 7,000円以上 8,000円未満
- 8,000円以上 9,000円未満
- 9,000円以上 10,000円未満
- 10,000円以上
- 給与形態が時間給でない（歩合制等）

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ（含、休職中）」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q4_8 主たる勤務機関【[回答: Q4_1]】であなたがやっている、業務の形態を教えてください。

注：
ここでの実務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務をあなた自身がやっていることを指します。

1/3

実務

なし

あり

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q3_1で「1.常勤のみ（含、休職中）」～「3.非常勤のみ」いずれかを選択した方のみ

Q4_9 主たる勤務機関【[回答: Q4_1]】であなたが携わっている、臨床心理関係の業務内容を教えてください。（含、教育・指導・管理業務等）

注：
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。（スーパービジョンは除く）
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
・臨床心理アセスメントには、障壁の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動（他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師）等を含みます。
・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確かなものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

1/4

臨床心理面接

なし

あり

戻る

次を表示

-----<改ページ>-----

【回答者条件】
Q4_9で「1.臨床心理面接」で「2.あり」いずれかを選択した方のみ

Q4_8 主たる勤務機関【回答：Q4_1】であなたがやっている、業務の形態を教えてください。

注：
 ここでの実務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務をあなた自身がやっていることを指します。

2/3

教育・指導

なし
 あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----
 【回答者条件】
 Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_9 主たる勤務機関【回答：Q4_1】であなたが携わっている、臨床心理関係の業務内容を教えてください。(含.教育・指導・管理業務等)

注：
 臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
 ・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパーバージョンは除く)
 また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
 ・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
 ・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
 ・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

2/4

臨床心理アセスメント

なし
 あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----
 【回答者条件】
 Q4_9で『1.臨床心理面接』で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q4_8 主たる勤務機関【回答：Q4_1】であなたがやっている、業務の形態を教えてください。

注：
 ここでの実務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務をあなた自身がやっていることを指します。

3/3

管理

なし
 あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----
 【回答者条件】
 Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_9 主たる勤務機関【回答：Q4_1】であなたが携わっている、臨床心理関係の業務内容を教えてください。(含.教育・指導・管理業務等)

注：
 臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
 ・臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパーバージョンは除く)
 また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
 ・臨床心理アセスメントには、諸種の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
 ・臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
 ・臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確実なものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

3/4

臨床心理地域援助

なし
 あり

戻る 次を表示

-----<改ページ>-----
 【回答者条件】
 Q4_9で『1.臨床心理面接』で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q4_8

主たる勤務機関【[回答: Q4_1]】であなたが行っている、業務の形態を教えてください。

注:
ここでの業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務をあなた自身が行っていることを指します。

<改ページ>

【回答者条件】
Q3_1で『1.常勤のみ(含.休職中)』～『3.非常勤のみ』いずれかを選択した方のみ

Q4_9

主たる勤務機関【[回答: Q4_1]】であなたが携わっている、臨床心理関係の業務内容を教えてください。(含.教育・指導・管理業務等)

注:
臨床心理業務とは、臨床心理面接、臨床心理アセスメント、臨床心理地域援助、臨床心理研究の4種の基本的専門業務を指します。
*臨床心理面接には、心理療法、心理相談、心理カウンセリング、心理指導、心理訓練等を含みます。(スーパーバージョンは除く)
また、来談者中心療法、行動療法、精神分析、夢分析、箱庭療法、遊戯療法、芸術療法、家族療法、臨床動作法等、さまざまな臨床心理学的援助技法を含みます。
*臨床心理アセスメントには、種々の心理検査、生活史や問題状況等についての査定面接、生活場面や遊戯場面、グループ場面での行動観察等を含みます。
*臨床心理地域援助には、より効果的な援助を行うために学校や職場や地域社会に働きかけて調整するコーディネーション、他専門家へのコンサルテーションやチームとしてのリエゾン、一般的な生活環境の健全な発展のために心理的情報を提供する活動(他職種や地域住民を対象とする講演会・研修会講師)等を含みます。
*臨床心理研究には、心の問題への援助を行っていくうえで、技術的な手法や理論を確かなものにしていくための基礎となる、臨床心理的調査や研究活動、研究発表、事例発表等を含みます。

4/4

臨床心理研究

なし

あり

戻る

次を表示

<改ページ>

【回答者条件】
Q4_9で『1.臨床心理面接』で『2.あり』いずれかを選択した方のみ

Q4_10

主たる勤務機関【[回答: Q4_1]】であなたが行っている、臨床心理面接の料金(含.消費税)を教えてください。

注:
ケースによって異なる場合は、最もよく支払われる金額についてお答え下さい。

- 無料
- 医師の保険診療に含む
- 3,000円未満
- 3,000円以上 5,000円未満
- 5,000円以上 7,000円未満
- 7,000円以上 9,000円未満
- 9,000円以上 11,000円未満
- 11,000円以上 13,000円未満
- 13,000円以上 15,000円未満
- 15,000円以上

<改ページ>

Q5 ご意見、ご感想等がありましたら、100字以内でご記入下さい。

<改ページ>

第9回「臨床心理士の動向調査」報告書

発行日 2024年（令和6年）7月

発行者 一般社団法人 日本臨床心理士会

〒113-0033

東京都文京区本郷2-27-8-401

TEL 03-3817-6801 FAX 03-3817-6802

E-MAIL office@jsccp.jp

ホームページURL <http://www.jsccp.jp/>